



TITLE:

<4>国内連携

AUTHOR(S):

CITATION:

<4>国内連携. 京都大学高等教育叢書 2012, 31: 183-277

ISSUE DATE:

2012-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/154754>

RIGHT:

IV. 国内連携

IV-1. MOST

1. はじめに

MOST（Mutual Online System for Teaching & Learning）は、本センターが2009年11月に提供を開始したオンラインFD支援システムで、大学の教職員、大学院生を対象とした招待制のサイトである（図1）（例えば、酒井（2011））。2011年1月20日現在、登録者数392名、スナップショット数1,141件、コミュニティ数75件となっている。本節では、MOSTの取り組みやシステム改良の内容を中心に報告をおこなう。



図1 MOSTトップページ (<https://online-tl.org>)

2. MOSTにおける取り組み

2-1. 大学教育研究フォーラム個人研究発表のMOSTコンテンツ化

MOSTのトップページからリンクされた「スナップショットギャラリー」では、これまでに作成されたスナップショットの中から、代表事例を紹介している。今年度は、関西地区FD連絡協議会の

「FD活動の報告会2011」向けに作成されたスナップショット12件（内2件はMOST以外で作成）を個別大学で行われている組織的なFD活動の事例として掲載した（III-2参照）。また、第17回大学教育研究フォーラムの個人研究発表の中から以下の5件の発表に対してスナップショット作成を依頼し、同様にMOST上に掲載した。依頼した5件のうち、1件は組織的なFDの取り組み、4件は個人やグループでの授業改善の事例であった。

- ・『経済学教育におけるアクティブラーニングの活用』水野英雄（愛知教育大学）
- ・『地域連携の実践型アントレプレナーシップ教育の成果 —4年間を通じた人材育成の取組み—』兼本雅章（共愛学園前橋国際大学）
- ・『協同学習としての「チーム学習」の実践と効果』長尾尚（大阪信愛女学院短期大学）・市川隆司（大阪信愛女学院短期大学）・奥田三郎（大阪私学教育情報化研究会）・齊尾恭子（関西大学）
- ・『自立的研究者育成プログラムの開発と評価～研究者のキャリアデザイン～』岩瀬峰代・奥本素子（総合研究大学院大学）
- ・『慣性モーメントの直観的理解 —授業中に学生に体験させる実験の例—』三浦裕一（名古屋大学）

2-2. コースポートフォリオ実践プログラムの実践事例の提供

2010年度後期（9月～3月）に試行として実施した、コースポートフォリオ実践プログラムを通して作成された、3名の大学教員のスナップショットを公開し、「スナップショットギャラリー」で閲覧できるようにした。コースポートフォリオは、大学教員が担当する単一の「コース」を対象として、その「デザイン」「実施」「学生の学習」について反省的に記述するポートフォリオである。これらのスナップショット上の各ボックスからは、詳細な説明にアクセスできるようになっている。また、1コマ（90分）の授業について、時間軸上に沿って授業の構造を記録し、振り返る「授業分析」スナップショットも合わせて作成されている。また、他大学の教員によるコースポートフォリオのピアレビューも実施しており、スナップショット上でコメントが共有されている。

本試行の成果は、2011～13年度科学研究費補助金基盤研究（B）「コースポートフォリオを活用した大学カリキュラムの質保証モデルの構築」（研究代表者：田口真奈）に引き継がれている。

- ・『教育心理学』神藤貴昭（立命館大学文学部）
- ・『情報と社会』稲葉利江子（京都大学情報学研究科情報教育推進センター／社会情報学専攻）
- ・『教育人間学基礎講読 B2』林貴啓（立命館大学）

2-3. SOTL活動におけるスナップショットの翻訳

カーネギー財団が運営していたKEEP Toolkit内で、主要なSOTL活動で用いられるスナップショットの事例の翻訳版を作成した。これらのスナップショットは、KEEP Toolkit内の「SOTLテンプレート」の事例として紹介されているものである。翻訳後、スナップショットの著者に許諾を得た後、MOSTの「スナップショットギャラリー」で公開した。以下、各テンプレートの簡潔な説明をおこなう。

(a) プロジェクト・スナップショット

このスナップショットは、一般的なSOTL（Scholarship of Teaching and Learning）プロジェクトのプロセスと成果について、着眼点や方法、リソース、課題、結果に関する指針や注意点を含めて包括的に作成されるものである。教授と学習について振り返るための枠組みがテンプレートとして提

供されており、教員がプロジェクトのプロセスを可視化することで活動をより深く理解できるようになり、さらなる探究を進める上での問題点が提起できるようになっている。

- ・『「Civil Public Discourse」における学生の理解の変容』Barbara Mae Gayle（ポートランド大学）

(b) コース・トランスフォーメーション

学生の変化に直面し、多くの教員は、学生のニーズや興味に応じてコースの教材を作り変えている。教員が、授業をどのように変更できるか、その変更によって学生のモチベーションや学びがどう変わったか、変更のプロセスでどんな問題が発生したかについて文書化し、他の教員と共有するためのテンプレートである。このテンプレートには、個人のリフレクションや授業改善に関心ある他の教員とリソースを共有するためのスペースが設けられている。

- ・『コースを見直す：コーストランスフォーメーション —講義内容の多文化化—』Elizabeth Barkley（フットヒルカレッジ）

(c) コース・ポートフォリオ

多くの教員は、学生の学びの特性や深さと関連付けて自分が担当するコース全体を文書化したいと考えている。このテンプレートは、教員が教育活動と学生の学びとの関連性を文書化して視覚化できるような枠組みを提供している。テンプレートでは、一般的な研究のプロセスを参考に、序論、背景とテーマ、目的、コースデザイン、データとエビデンス、所見、リソース、他の教員からのフィードバックを記述する領域が設けられている。

- ・『数学的な思考方法を学ぶために』B. Cooperstein（カリフォルニア大学サンタクルーズ校）

(d) クラス・アナトミー（授業分析）

教授・学習に関する日々の相互作用を把握するため、特定の授業または学習活動で起きている事柄についての文書化や表現を、素早くかつ簡単に始められる。このテンプレートは、教員が授業の時間的構造を文書化できるような枠組みを提供している。最終的には、クラスアナトミースナップショットを「コースポートフォリオ」「授業改善」「プロジェクトスナップショット」などのテンプレートにリンクを張ることで、より規模の大きな電子ポートフォリオを作成できる。

- ・『相互作用的学习法』B. Cerbin（ウィスコンシン大学ラクロス校）

(e) コース・トランスフォーメーション スティッチ・グループ

学生の変化に直面し、多くの教員は、学生のニーズや興味に応じてコース教材を作り変えている。教員が、コースをどう改善できるか、改善によって学生のモチベーションや学びがどのように変わったか、改善のプロセスでどんな問題が発生したかについて文書化し、他の教員と共有するテンプレートを提供している。このテンプレートには、ホーム、プロジェクトの概要、カリキュラムのテーマ、データ、最終報告のサマリーが含まれている。

- ・『カリキュラム改善の分析』Elizabeth Barkley（フットヒル・カレッジ）

2-4. MOSTフェロー

本センターでこれまで提供してきたMOSTの活動をさらに推進・活性化させるため、全国の大学教員を対象とし、MOSTを利用した授業実践の見直しや教育改善の活動に取り組む「MOSTフェロー」を募集し、次年度から本格的に活動することになった。MOSTフェローは、カーネギー教育振興財団のCASTLプログラムに着想を得た取り組みで、2012年度にMOSTを利用し、各フェローの教育上の課題に沿って各自でスナップショットを作成するとともに、フェロー間でのピアレビューなどを通じ、互いの教育実践の質を高めていこうとする試みである（資料1）。

2011年12月21日にあさがおML、MOSTユーザーML等を通じて募集を開始し、2012年1月16日に締め切った。予想を大きく上回る24名の教員から申請があり、10名を採択した。第1期MOSTフェローは、2月11日（土）に京都大学で開催予定の第1回ミーティングより活動を開始する。本取り組みは、始まったばかりであるが、今後、学会等を通じて成果を報告する予定である。

3. システムの開発と改修について

3-1. MOSTトップページギャラリーの開発

MOSTの登録者以外にも有用な環境となるよう、オープンソースのWordPressを利用し、MOSTのトップページを開発し、既存のトップページと置き換えた（図1参照）。最も大きな変更点は、後述の「スナップショットギャラリー」と「MOST活用プログラム」の提供である。

トップページは、MOSTの関連リソースへのポータルとなるようにデザインされた。これらのリソースには、MOST 紹介ビデオ、インストラクションビデオ、簡易マニュアル、リーフレット、MOST 講習会ページへのリンク、カーネギー財団の Gallery of Teaching & Learning へのリンク、おすすめスナップショットなどがある。

「MOST 活用プログラム」は、大学教員が個人やコミュニティで授業改善をおこなったり、学科や学部、大学単位で組織的に FD や教育改善の活動をおこなうための、MOST を活用した教育研修プログラムを提供している。各プログラムでは、KEEP Toolkit のスナップショットを活動のプロセス内で作成することになっている。プログラム名をクリックすると、それぞれの取り組みの説明やスナップショットの作成事例にもアクセスでき、また、プログラムで使用する各種リソースも提供している。現在、「組織的 FD ポートフォリオ」「組織的 FD ポートフォリオ（関西地区 FD 連絡協議会向け）」「コースポートフォリオ」「授業分析」「Web 公開授業」の 5 つのプログラムが提供されている。

「スナップショットギャラリー」では、MOST ユーザーが KEEP Toolkit で作成した特徴的なスナップショットを、プログラム別に紹介しており、利用者が自身のスナップショット作成や教育改善の取り組みの参考にすることができる。このギャラリーは、上記の活用プログラムで作成されたもののほか、カーネギー財団知識メディア研究所のプロジェクトにより作成された翻訳版スナップショット 5 件が含まれる（2-3 参照）。

3-2. KEEP ToolkitとSakaiの改修

利用者などの要望などを受け、今年度中にMOSTでおこなった改修項目を以下に列挙する（原稿作成時点で一部未完成。年度内に提供予定）。

(a) KEEP Toolkit関連

- ・ スナップショット編集：ボックス追加時の位置の改良

- ・ スナップショット編集：html書式削除機能の追加

(b) MOST (Sakai) 関連

- ・ 添付ファイルの挙動：MIME設定の修正
- ・ ノートツール：ノートツールの改修（リソースツールとの連携強化）
- ・ 利用者へのコンテンツのレコメンデーション（推薦）機能の開発
- ・ サイトの名称と整合性を取るためURLの変更

この他、活用プログラム向けのワークブックやマニュアル類の整備など、各種の改良をおこなった。

4. MOST講習会

教育関係共同利用拠点における業務として、本年度は4回の「MOST 講習会」を企画し、2回実施した。対象者は、大学教員およびFDや教育改善に関わる大学職員、将来大学教員を目指す大学院生とした。各回の参加者数は、第1回（6月10日実施）が5名、第2回（9月9日実施）が5名であった（第4回は未実施（3月2日））なお、第4回の講習会は、関西地区FD連絡協議会の会員校に所属する教職員向けの講習会で、協議会広報ワーキンググループとの共催で開催予定であり、次年度の「FD活動報告会 2012」と連動している。

このほか、MOSTのデモを、第17回大学教育研究フォーラムの参加者に対して実施した。3月に開催される第18回大学教育研究フォーラムにおいても実施予定である（執筆時点で未実施）。MOSTの登録は招待制で、通常は事務局よりアカウントの発行をおこなっていないが、これらの講習会およびデモにおいては希望者にMOSTのアカウントの発行手続きをおこなっている。



写真1 MOST講習会の様子

5. 成果報告

MOSTに関わる成果報告一覧を以下に示す。今年度のISSOTL11において発表したポスターの原稿をV-1-2に、第83回公開研究会の内容についてはV-2-2に掲載しているので、そちらも参照されたい。

論文・著書

- ・ 酒井博之 (2011) 組織間ピアレビューを導入した組織的 FD 活動の情報共有の試みー 参加者アンケートとピアレビューコメントの分析を通してー、京都大学高等教育研究、第 17 号、109-121.
- ・ Hiroyuki Sakai (2011.10) Mutual Faculty Development Through Technology: The development of MOST and its future directions. Building networks in higher education: Towards the future of faculty development, Center for the Promotion of Excellence in Higher Education & Matsushita, K. (Eds.), Tokyo: Maruzen Planet, Chap. 6, 105-122. (『大学教育のネットワークを創る』英語版)

学会発表

- ・ 酒井博之・大山牧子・田口真奈 2012.3 コースポートフォリオによるカリキュラム改善の試み、第 18 回大学教育研究フォーラム、京都大学
- ・ Sakai, H. 2011.10 Building a technology-enabled course portfolio program across institutions, the 2011 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference (Poster Session) (Milwaukee, U.S.A., Oct. 20-23, 2011)
- ・ 酒井博之 2011.9 オンライン FD 支援システム「MOST」の活用ー組織的 FD 活動の地域連携への適用 (その 2) ー、日本教育工学会第 27 回全国大会講演論文集、825-826、首都大学東京

6. 今後の展開について

次年度以降も、今年度に引き続き日本の大学における教育改善や FD に関する事例を、大学教育研究フォーラムの個人研究発表や、関西地区 FD 連絡協議会会員校における特徴的な取り組み、また、特に、今年度より開始した MOST フェローの取り組みの支援・推進などを通じて、スナップショットとして作成し、蓄積、提供をおこなう。また、今年度、MOST 利用者以外の一般の大学教員が利用可能なオンライン・ギャラリーを構築したが、スナップショットが一定程度蓄積されてきたため、ギャラリーのコンテンツや実践プログラムの内容の充実をさらにはかっていきたい。

参考文献

- ・ 酒井博之 2011 オンライン上における相互研修の場の構築ーMOST の開発と展開に向けてー『大学教育のネットワークを創るーFD の明日へー』京都大学高等教育研究開発推進センター(編)・松下佳代(編集代表)、東信堂、第 6 章、107-125.

(酒井 博之)

2012年度MOSTフェロー (第1期) 募集について

京都大学 高等教育研究開発推進センター

教育に**情熱**を注いでいるこのような大学の先生たちを探しています！

授業に対する工夫やこだわりを、多くの大学の先生や学生に知って欲しい！

授業改善をより効果的にするため、そのプロセスや成果をまとめてみたい！

授業をより良くするため、他の先生たちからコメントやアドバイスが欲しい！

授業実践について広く発表する機会や場が欲しい！

お互いに助け合いながら授業改善をおこなうための仲間が欲しい！

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、オンライン上の大学教員の相互研修の場として「MOST」を構築し、2009年より全国の大学教職員、大学院生に提供してきました。これまで、個人教員を対象とした授業実践や授業改善、あるいは、組織を対象としたFDや教育改善の取り組みについてMOSTを利用して電子ポートフォリオ（スナップショット）が作成され、現在、約50件のスナップショットがMOST上で公開されています（<https://online-tl.org/>）。

この度、本センターでは、この活動をさらに推進・活性化させるため、全国の大学教員を対象とし、MOSTを利用した授業実践の見直しや教育改善の活動に取り組む「**MOSTフェロー**」を募集することになりました。以下の活動内容等をご覧頂き、本取り組みへの参加を希望される方は下記応募要領に従ってお申し込み下さい。ユニークな授業実践をされている先生の推薦・紹介も歓迎いたします。多くの方からのお申し込みをお待ちしています。

募集内容

対象者：全国の大学教員

募集人数：10名程度

活動期間：2012年4月～2013年3月

（一部の活動は2011年度中に行います*）

活動費：10万円程度を支給（2012年度）

応募締切：2012年1月16日

*2/11～12（右欄参照）のミーティングとシンポジウムに参加して頂きます

フェローの活動内容

2012年

2月11日（土）16:00～19:00

第1回ミーティング（於：京都大学）（夕食付）

2月12日（日）13:30～18:00

シンポジウム「大学教育におけるポートフォリオの活用」

（於：京都大学）への参加

（※2/11～12の旅費・宿泊費を支給します）

4月～9月（前期） テーマに沿ったスナップショットの作成とピアレビュー

（※2012年度に2回程度のミーティングを実施予定）

2013年

3月 大学教育研究フォーラム（於：京都大学）で成果発表

応募要領

MOSTフェローへの参加を希望する方は、下記の項目(1)～(8)をメールにて「info@online-tl.org」宛にお送り下さい。採用の可否は、後日、個別にメールにてお知らせします（応募締切：2012年1月16日）。

- (1) 氏名
- (2) 所属（大学名・部局名）
- (3) 職名
- (4) メールアドレス
- (5) 取り組みのテーマ（右記テーマ例を参考にして下さい）
- (6) 取り組みの背景、授業の概要、改善の内容・方法など
（500字程度）
- (7) 応募の動機（200字程度）
- (8) その他、取り組みに関して選考の参考となる資料（任意）

テーマ例：

- ・アクティブラーニングを導入した授業
 - ・深い学習（deep learning）を促す工夫
 - ・新しい授業形態（キャリア教育、サービスラーニング、プロジェクト学習など）のデザインや評価
 - ・大人数講義で学生を授業に巻き込む工夫（双方向性授業、クリッカー利用など）
 - ・LMSによる学習支援
 - ・授業外学習を促進する取り組み
 - ・ラーニングポートフォリオの利用と学習の評価
- その他、ユニークな授業実践を募集しています。

お問い合わせ

MOSTフェローに関するお問い合わせは、info@online-tl.orgまでお願いいたします。

IV-2. 大学教育研究フォーラム

1. 概要

大学教育研究フォーラムは、京都大学高等教育研究開発推進センターが主催し、1994年度より年1回開催してきたものである。今年で18回目を迎える（2012年3月15日・16日開催）。毎年400～500名の大学教職員関係者が参加する、全国的にも広く認知された大学教育改善に関する研究・実践交流の場である。

同フォーラムは、FD（ファカルティ・ディベロップメント）や教授法、教育評価、遠隔教育といった諸領域における、学内・学外の大学教育関連の最先端の実践知をあまねく集積する場として開催するものである。最近の趨勢をふまえた最先端の知見は、学内外の教育改善推進に大きく貢献すると考えられている。

特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」を受けて、大学教育研究フォーラムは国内連携事業の一つとして運営されている。

2. プログラムの特徴

大学教育研究フォーラムは、毎年、①特別講演、②シンポジウム、③小講演、④ラウンドテーブル、⑤個人研究発表から構成され実施している。以下は、各プログラムの特徴、ならびに本年度の具体的なプログラムである。

①基調講演・シンポジウム 大学教育実践に関わる時宜にかなったテーマを取り上げ、パネリストとフロア参加者を含めた討論をおこなう。本年度は、センター創設の立役者である田中毎実センター長が定年を迎えることもあり、センターの相互研修型FDを総括する基調講演をおこなってもらい、それにもとづくパネルディスカッション形式のシンポジウムをおこなう。

基調講演：田中 毎実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授／センター長）
「相互研修型FDの総括」

パネリスト1：山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室准教授）

パネリスト2：高橋 哲也（大阪府立大学高等教育推進機構教授／機構長・副学長）

パネリスト3：夏目 達也（名古屋大学高等教育研究センター教授）

パネリスト4：飯吉 透（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

パネリスト5：樋口 聡（文部科学省高等教育局大学推進課大学改革推進室長）

パネリスト6：大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

②小講演 各論的に、具体的なトピックを8つ取り上げ、最先端の知見を提供する。本年度は下記のテーマで講演者に依頼をおこなっている。

・山川 修（福井県立大学学術教養センター教授）

「学習コミュニティ形成を意図した大学連携の取組」

・児美川 孝一郎（法政大学キャリアデザイン学部教授）

「大学におけるキャリア支援・教育はどこに向かうか？—揺らぐ「就社」社会のなかで—」

・西岡 加名恵（京都大学大学院教育学研究科准教授）

「大学教育におけるポートフォリオ評価法」

- ・吉良 直（日本教育大学院大学学校教育研究科教授）

「大学院生のための段階的な大学教員養成制度の概要—アメリカの研究大学から日本への示唆—」

- ・松浦 良充（慶應義塾大学文学部教授）

「大学にとって「教育」とは何か—日米比較の観点から—」

- ・山本 泰（東京大学大学院総合文化研究科教授）

「討議力養成を中心とする教養教育の改革」

- ・小方 直幸（東京大学大学院教育学研究科准教授）

「学習する学生と学習させる教員」

- ・塩川 雅美（学校法人常翔学園国際交流コーディネーター）

「自己啓発とキャリア形成—教員、職員を超えて—」

③ラウンドテーブル ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集する。本年度のフォーラムでは「学生とともに進める FD」「高次リテラシーと批判的思考の教育」など 10 件の応募があった。

④個人研究発表 「FD・授業公開」「教育評価」「カリキュラム」「授業研究」「教育評価」「e-Learning・遠隔教育」「大学生・大学生活」の研究部会を用意し、大学教育実践研究の交流の場としている。本年度のフォーラムでは、77 件の応募があった。2009 年度の申し込みが 67 件、2010 年度の申し込みが 72 件であったから、申し込みは漸次増加傾向にあると言える。

3. 付録資料

『第 18 回大学教育研究フォーラム プログラム』（web 上でも公開、下記参照 <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/2011/program2011.pdf>）

（溝上 慎一）

第18回 大学教育研究フォーラム プログラム

2012.3.15 THU・**16** FRI

京都大学 吉田南構内1号館

【個人研究発表・ラウンドテーブル企画】：1号館／総合館（吉田南構内）

【小講演】：1号館（吉田南構内）

【基調講演・パネルディスカッション】：百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール（本部構内）

【情報交換会】：百周年時計台記念館・2F国際交流ホール（本部構内）

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

本研究フォーラムは特別経費プロジェクト「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」の一環です。

協賛：関西地区FD連絡協議会

※本プログラムは下記 Web 上で、PDF 版を公開しています。

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

第 18 回大学教育研究フォーラム

◆日 程 2012年3月15日(木)～16日(金)

◆会 場 京都大学 吉田キャンパス

【個人研究発表・ラウンドテーブル企画】 1号館／総合館（吉田南構内）

【小講演】 1号館（吉田南構内）

【基調講演・パネルディスカッション】 百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール（本部構内）

【情報交換会】 百周年時計台記念館・2F国際交流ホール（本部構内）

3月15日(木)

受 付 8:15～11:00 ……【1号館・共106】
12:30～13:00 ……【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

個人研究発表(1) 9:00～10:45 ……【1号館／総合館】

9:00～9:20 個人発表①

9:20～9:40 個人発表② *1人あたりの時間20分

9:40～10:00 個人発表③ (発表時間15分＋質疑応答3分＋2分交代)

10:00～10:20 個人発表④

10:20～10:45 全体討論

小 講 演(1) 11:00～12:00 ……【1号館】

基調講演／パネルディスカッション

13:00～17:00 ……【百周年時計台記念館・1F百周年記念ホール】

開会の挨拶 13:00～13:10 松本 紘（京都大学総長）

基 調 講 演 13:10～14:10

「相互研修型FDの総括」

田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授／センター長）

パネルディスカッション 14:25～17:00

パネリスト1 山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授）

パネリスト2 高橋 哲也（大阪府立大学高等教育推進機構教授／機構長・副学長）

パネリスト3 夏目 達也（名古屋大学高等教育研究センター教授）

パネリスト4 飯吉 透（マサチューセッツ工科大学教育イノベーション・テクノロジー局
シニアストラテジスト）

パネリスト5 樋口 聡（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長）

パネリスト6 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

司 会 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

情 報 交 換 会 17:30～19:30 ……【百周年時計台記念館・2F国際交流ホール】

3月16日(金)

受付 8:30~13:30 【1号館・共106】

個人研究発表(2) 9:00~10:45 【1号館／総合館】

9:00~ 9:20 個人発表①

9:20~ 9:40 個人発表② *1人あたりの時間20分

9:40~10:00 個人発表③ (発表時間15分+質疑応答3分+2分交代)

10:00~10:20 個人発表④

10:20~10:45 全体討論

小講演(2) 11:00~12:00 【1号館】

ラウンドテーブル企画 13:30~16:00 【1号館／総合館】

3月15日(木)

第 1 日

個人研究発表(1) 9:00~10:45

A-1. 教育評価研究部会

座長：小島佐恵子 …… 【会場：1号館・共312】

短期大学卒業生の「キャリア形成と短大評価調査」に基づく FD 研究の方向性

ー教育成果の読み取り方と授業改善のあり方ー

武田るい子（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科）

長田尚子（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科）

村田信行（清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科）

九州大学における GPA 制度と成績分析

藤原智子（九州大学基幹教育院）

淵田吉男（九州大学基幹教育院）

島根大学における教学 IR の現在とこれから

雨森 聡（島根大学教育開発センター）

森 朋子（島根大学教育開発センター）

松田岳士（島根大学教育開発センター）

学生調査の実施・活用に関する現状と課題

小島佐恵子（北里大学高等教育開発センター／一般教育部）

鈴木牧彦（北里大学高等教育開発センター／一般教育部）

B-1. カリキュラム研究部会

座長：大森不二雄 …… 【会場：1号館・共311】

新入生の実態に合わせたカリキュラムの検討ー大学生基礎力調査（9万人対象）の分析よりー

藤井恒人（株式会社ベネッセコーポレーション大学事業部）

岡田佐織（株式会社ベネッセコーポレーション大学事業部）

樋口 健（株式会社ベネッセコーポレーション教育研究開発センター）

青野 透（金沢大学大学教育開発・支援センター）

学士力育成に資する共通英語教育の環境整備

岡田圭子（獨協大学経済学部）

飯島優雅（獨協大学経済学部）

大学生の数学力全国 22 大学調査の結果より

水町龍一（湘南工科大学工学部）

御園真史（島根大学教育学部）

学習成果に基づく学士課程改革と e ポートフォリオー地方国立大学の取組事例ー

大森不二雄（首都大学東京大学教育センター）

本間里見（熊本大学大学教育機能開発総合研究センター）

宮崎 誠（法政大学情報メディア教育研究センター）

3月15日(木)

B-2. カリキュラム研究部会**座長：酒井浩二 ……【会場：総合館・共北25】**

文系学生を対象とした自然科学科目における探求学習型プログラムの検討

山田秀人（九州大学基幹教育院）
 小島健太郎（九州大学基幹教育院）
 鎌滝晋礼（九州大学基幹教育院）
 徳田 誠（佐賀大学農学部）
 藤原智子（九州大学基幹教育院）
 淵田吉男（九州大学基幹教育院）

ゼミナール活動活性化のためのキャリア教育導入について

平山 弘（阪南大学流通学部）
 大村邦年（阪南大学流通学部）

大学初年次のアカデミックライティング授業における学習者のメタ認知的知識と最終課題得点との関係

椿本弥生（公立はこだて未来大学システム情報科学部）
 沼田 寛（公立はこだて未来大学システム情報科学部）
 大塚裕子（公立はこだて未来大学システム情報科学部）

レポート技法習得の前段階としての文章作成の練習法

酒井浩二（京都光華女子大学キャリア形成学部）

C-1. 授業研究部会**座長：平山 勉 ……【会場：総合館・共北26】**

初年次教育におけるオンデマンドリメディア学習の効果

樋口勝一・尾崎秀夫（神戸海星女子学院大学）

初年次導入教育としての教育ディベート

丸尾雅啓・倉茂好匡（滋賀県立大学環境科学部）

理科系教職課程における模擬授業の効果に関する事例研究－自信度とイメージマップを通して－

川村康文（東京理科大学理学部）
 海老崎功（京都市青少年科学センター）

ユビキタス映像記録視聴システムを活用した授業研究の試み

平山 勉（名城大学教職センター）
 後藤明史（名古屋大学情報基盤センター）
 竹内英人（名城大学教職センター）

C-2. 授業研究部会**座長：澤田忠幸 ……【会場：総合館・共北27】**

大学生を対象とした天文学の知識調査と授業の効果

藤原智子・淵田吉男（九州大学基幹教育院）

初年次教育における継続的リフレクションの効果－学習コミュニティに支えられた振り返り－

土屋衛治郎・森 朋子・鹿住大助・雨森 聡（島根大学教育開発センター）

カラーカードを用いた簡易応答確認装置

吉村匠平・佐藤みつよ（大分県立看護科学大学看護学部）

学び合いを通じた初年次教育の実践－医療系単科大学における3年間の取り組みと評価の試み－

澤田忠幸・鳥居順子・加藤徳雄・脇坂浩之・草薙康城（愛媛県立医療技術大学保健科学部）

3月15日(木)

C-3. 授業研究部会

座長：青野 透 ……【会場：総合館・共北28】

初年次教育におけるビジネス・ゲームの利用とその有効性

上野雄史・大久保誠也・岸 昭雄・国保祥子・武藤伸明・森 勇治

(静岡県立大学経営情報学部)

大学教育におけるタイム・マネジメントー授業改善を学生の学習へ活かすためにー

中村章二 (愛知教育大学)

教育成果を高めるためのブレンディド・ラーニングの試みー「医事法入門」を中心にー

青野 透 (金沢大学大学教育開発・支援センター)

D-1. FD・授業公開研究部会

座長：榊原暢久 ……【会場：総合館・共北31】

大学・高専教員のFD研修ニーズに関する研究

城間祥子・大竹奈津子・山田剛史・佐藤浩章 (愛媛大学教育・学生支援機構)

阿南高専におけるティーチング・ポートフォリオの展開ー高専におけるTP作成の普及ー

松本高志・坪井泰士 (阿南工業高等専門学校)

ティーチング・ポートフォリオを活用した新任教員研修

坪井泰士・松本高志 (阿南工業高等専門学校)

芝浦工業大学工学部におけるFD活動の事例報告ー授業外学習を促すシラバスの書き方WSー

榊原暢久・ホートン広瀬恵美子 (芝浦工業大学工学部)

E-1. e-Learning・遠隔教育研究部会

座長：加藤由香里 ……【会場：総合館・共北32】

学生からの視点によるクリッカーが効果的に機能するための要因の検討

須藤 智・佐藤龍子 (静岡大学大学教育センター)

コースポートフォリオによるカリキュラム改善の試み

酒井博之 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

大山牧子 (京都大学大学院教育学研究科)

田口真奈 (京都大学高等教育研究開発推進センター)

アンチ・ユビキタス・ラーニング

天野憲樹 (岡山大学教育開発センター)

海外で活躍する日本語教師支援のためのポータルサイトの開発

加藤由香里 (東京農工大学大学教育センター)

3月15日(木)

F-1. 大学生・大学生生活研究部会

座長：鹿住大助……………【会場：1号館・共207】

初年次学生における大学生活への興味－プロジェクトテーマからの分析－

中島 誠・長濱文与・中山留美子（三重大学高等教育創造開発センター）

中西良文（三重大学高等教育創造開発センター／教育学部）

大学生の学習と勉強への取り組み方とそれらに影響を与える要因についての考察

斉藤有吾（京都大学大学院教育学研究科）

図書館におけるピアサポート－教室外学習の場としての図書館の可能性－

昌子喜信・矢田貴史（島根大学附属図書館／学術国際部図書情報課）

鹿住大助・森 朋子（島根大学教育開発センター）

ピアサポートにおける学生の学び

－島根大学附属図書館「図書館コンシェルジュ」へのインタビュー－

鹿住大助・森 朋子（島根大学教育開発センター）

昌子喜信・矢田貴史（島根大学附属図書館／学術国際部図書情報課）

F-2. 大学生・大学生生活研究部会

座長：南 学……………【会場：1号館・共208】

ピアサポートシステムによる学習サポートデスクの試行

林 真弥（島根大学教育開発センター）

玉谷 充（島根大学総合理工学研究科）

北村幸一郎（島根大学総合理工学部）

森 朋子（島根大学教育開発センター）

教員、職員、学生が共に進める学生支援の取り組み

吉田 博（徳島大学大学開放実践センター）

先輩後輩関係を指導単位とするペア制度を用いたゼミ機能の有効性

－協同的な学びのあり方に関する質的検討を踏まえて－

山田嘉徳（関西大学大学院心理学研究科）

大学生における社会的クリティカルシンキングの発達（2）

南 学・中西良文（三重大学教育学部／高等教育創造開発センター）

中島 誠（三重大学高等教育創造開発センター）

3月15日(木)

小講演(1) 11:00~12:00

学習コミュニティ形成を意図した大学連携の取組 【会場：1号館・共312】

山川 修（福井県立大学学術教養センター教授）

【司会】酒井 博之（京都大学高等教育研究開発推進センター特定准教授）

大学におけるキャリア支援・教育はどこに向かうか？

ー揺らぐ「就社」社会のなかでー 【会場：1号館・共311】

児美川 孝一郎（法政大学キャリアデザイン学部教授）

【司会】溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

大学教育におけるポートフォリオ評価法 【会場：1号館・共208】

西岡 加名恵（京都大学大学院教育学研究科准教授）

【司会】松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

大学院生のための段階的な大学教員養成制度の概要

ーアメリカの研究大学から日本への示唆ー 【会場：1号館・共207】

吉良 直（日本教育大学院大学学校教育研究科教授）

【司会】田口 真奈（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

3月15日(木)

基調講演／パネルディスカッション 13:00～17:00

会 場 百周年時計台記念館・1F 百周年記念ホール

開会の挨拶 13:00～13:10

松本 紘（京都大学総長）

基 調 講 演 13:10～14:10

「相互研修型FDの総括」

田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授／センター長）

パネルディスカッション 14:25～17:00

趣 旨

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、文部科学省の支援を受けて、2008年度より5年計画で、特別教育研究「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」に取り組んできました。この特別教育研究は、学内ではFD研究検討委員会、地域では関西地区FD連絡協議会、全国レベルでは2つのフォーラムやFDネットワーク代表者会議、国際レベルではSOTL関連組織との連携などを通じて、相互研修型FDの理念にもとづくFDネットワーク形成を行おうとするものです。2010年3月には、教育関係共同利用拠点（拠点名称「相互研修型FD共同利用拠点」）として文科省から認定され、これによって、本センターは、大学教育の研究開発の拠点としての役割を継続的に果たしていく使命を公的にも担うことになりました。

今回のシンポジウムは、本年3月末で特別教育研究4年目の終了と拠点リーダーである田中センター長の退職を迎えるにあたり、これまでの本センターの活動を総括し、今後の活動への展望をひらくことを目的とするものです。田中センター長による基調講演に対し、これまで本センターのFDネットワーク形成活動に何らかの形で関与されてきた方々からコメントをいただき、それに応えることによってこの目的を果たしたいと考えています。

パネリスト1： 山田 剛史（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授）

パネリスト2： 高橋 哲也（大阪府立大学高等教育研究機構長／副学長）

パネリスト3： 夏目 達也（名古屋大学高等教育研究センター教授）

パネリスト4： 飯吉 透（マサチューセッツ工科大学教育イノベーション・テクノロジー局シニアストラテジスト）

パネリスト5： 樋口 聡（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長）

パネリスト6： 大塚 雄作（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

司 会： 松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

3月16日(金)

第2日

個人研究発表(2) 9:00～10:45

A-2. 教育評価研究部会

座長：佐藤浩章 ……【会場：総合館・共北25】

就業力はどのように測定されているかー現状と課題ー

松田岳士（島根大学教育開発センター）

成績の学生による相互評価導入の試み

小山内隆生（弘前大学大学院保健学研究科）

シミュレーションの教育的意義と可能性ー理学療法教育における OSCE-R による学生の学びの促進ー

平山朋子（藍野大学医療保健学部）

松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）

西村 敦（大阪保健医療大学付属大阪リハビリテーション専門学校）

堀 寛史（藍野大学医療保健学部）

全員参加型授業コンサルティングの効果測定

佐藤浩章（愛媛大学教育・学生支援機構）

B-3. カリキュラム研究部会

座長：森 朋子 ……【会場：総合館・共北26】

教員養成型 PBL 教育の課題と展望 VIー教員養成スタンダードによる分析ー

松本金矢（三重大大学教育学部）

根津知佳子（三重大大学教育学部）

森脇健夫（三重大大学教育学部）

教員養成型 PBL 教育の課題と展望 VIIー学修サポートのあり方についてー

中西康雅（三重大大学教育学部）

根津知佳子（三重大大学教育学部）

森脇健夫（三重大大学教育学部）

守山紗弥加（三重大大学教育学部）

高林朋世（三重大大学教育学部）

大学生の学習に着目したカリキュラムの改善ー理学療法士系大学の改善プログラム実施に向けてー

大山牧子（京都大学大学院教育学研究科）

物理を学ぶ1年生のエスノグラフィー修学プロセスに焦点を当ててー

森 朋子（島根大学教育開発センター）

雨森 聡（島根大学教育開発センター）

3月16日(金)

C-4. 授業研究部会

座長：坂井敬子……………【会場：総合館・共北27】

若者を取りまく環境と「学び合いの場」の意義

松田淑子（福井大学教育地域科学部）

山田志穂・吉村祐美・賈 璐（福井大学大学院教育学研究科）

学習者の多様性と「チーム学習」

長尾 尚（大阪信愛女学院短期大学）

奥田三郎（おおさかチーム学習研究会）

市川隆司（大阪信愛女学院短期大学）

ライティング・センターにおける大学生のレポート執筆プロセスへの内省を促す実践と評価

館野泰一（東京大学大学院学際情報学府）

大川内隆朗（早稲田大学大学院会計研究科）

平野智紀（内田洋行教育総合研究所）

中原 淳（東京大学大学総合教育研究センター）

大学1・2年生における汎用的／専門的／実務的資質能力の検討

坂井敬子・須藤 智・佐藤龍子（静岡大学大学教育センター）

C-5. 授業研究部会

座長：沖林洋平……………【会場：総合館・共北28】

海外語学研修用ポートフォリオの考察—より効果的な英語研修を目指して—

村上裕美（関西外国語大学短期大学部）

初年次学生にジェネリック・スキルを身につけさせる

久保田祐歌（愛知教育大学教育創造開発機構）

河野哲也（立教大学文学部）

ゼミナールに対して学部3・4年生が感じている魅力と不満の検討

伏木田稚子（東京大学大学院学際情報学府）

共通教育科目「心理学」の複数横断的効果の検証

沖林洋平・小杉考司・川崎徳子・恒吉徹三・福田 廣（山口大学教育学部）

C-6. 授業研究部会

座長：吉田文子……………【会場：総合館・共北31】

学生の自主的学習を効果的に促進する指導モデル

杉田由仁・流石ゆり子（山梨県立大学看護学部）

吉田文子（佐久大学看護学部）

平田良江・小林美雪・須田由紀・井口久美子（山梨県立大学看護学部）

経済学基礎科目における演習科目の効果に関する実証研究

東 晋司・児玉俊介・佐藤 崇・澤口 隆（東洋大学経済学部）

巽 靖昭（早稲田大学国際学術院）

初年次教育科目「導入基礎演習」の学修への影響—「Student Report」からの分析—

吉田文子・八尋道子・柿澤美奈子（佐久大学看護学部）

3月16日(土)

C-7. 授業研究部会

座長：五島譲司 …… 【会場：1号館・共207】

レポート・論文内の参考文献に対する大学生の素朴概念

福田 健（清泉女子大学文学部）

e-learningにおける学習ストラテジーと英語学習ピリーフ

佐藤恭子（追手門学院大学国際教養学部）

権 瞳・Alan Bessette（プール学院大学国際文化学部）

有馬淑子（京都学園大学人間文化学部）

教員のcollaborationによる職能開発に関する一考察

五島譲司（新潟大学教育・学生支援機構）

D-2. FD・授業公開研究部会

座長：吉田雅章 …… 【会場：総合館・共北32】

全教員の相互研修型FDのあり方についての一考察ー全授業公開による通信制大学における取り組みー

三田地真実・天野一哉・坪内俊憲・伊藤嘉一・森川和子（星槎大学共生科学部）

国際連携教育プログラムにおける専門教員FDの可能性ー海外集中講義を実践の場としてー

リー飯塚尚子（長岡技術科学大学国際連携センター）

授業改善のためのFDサイクルとその検証ー神奈川工科大学における12年間の実践ー

遠山絃司（神奈川工科大学教育開発センター）

大学院のFDに関する暗中模索

吉田雅章（和歌山大学経済学部）

D-3. FD・授業公開研究部会

座長：木野 茂 …… 【会場：1号館・共311】

実務系教員の大学教育力に対する自己評価とFDによる支援可能性

森田健宏（関西外国語大学短期大学部）

ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ運営における課題

ー活動・作業のアウトカム評価に着目してー

竹元仁美・山邊素子（聖マリア学院大学看護学部）

質保証を目指す選択科目の授業改善

清水 亮（三重中京大学現代法経学部）

学生FD活動の現況と課題

木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）

3月16日(金)

F-3. 大学生・大学生生活研究部会

座長：清水強志……………【会場：1号館・共208】

College Readiness 学力・体力・気力の3要素と、大学新卒離職率3年3割と

ー College Readiness を *Occupation* Readiness に繋げるという大学の役割を考えるー

菅野憲司（千葉大学文学部）

大学生の自己調整学習方略・授業プロセス・パフォーマンスと学業成績の関係について

ー大学生の自己評価と教員評価の差異についての検討ー

畑野 快（京都大学大学院教育学研究科）

大学初年次における学習活力に関する調査

清水強志（創価大学学士課程教育機構）

文章作成に対する自己イメージに関する調査

山崎めぐみ（創価大学学士課程教育機構）

F-4. 大学生・大学生生活研究部会

座長：上崎 哉……………【会場：1号館・共312】

立命館大学における研究者育成プログラムの展開ー人文社系専攻の大学院生支援を中心にー

櫻井浩子（立命館大学博士キャリアパス推進室）

経験学習型授業における学生の経験と学習についての調査研究①

木村 充（東京大学大学院学際情報学府）

河井 亨（京都大学大学院教育学研究科）

経験学習型授業における学生の経験と学習についての調査研究②

河井 亨（京都大学大学院教育学研究科）

木村 充（東京大学大学院学際情報学府）

学生生活と学業成績の関連性についての包括的調査

ー悉皆調査による学生指導資料作成に向けた実験的取組みー

上崎 哉（近畿大学法学部）

3月16日(金)

小講演(2) 11:00~12:00

大学にとって「教育」とは何かー日米比較の観点からー …………… 【会場：1号館・共312】

松浦 良充（慶應義塾大学文学部教授）

【司会】田中 每実（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

討議力養成を中心とする教養教育の改革 …………… 【会場：1号館・共208】

山本 泰（東京大学大学院総合文化研究科教授）

【司会】松下 佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）

学習する学生と学習させる教員 …………… 【会場：1号館・共311】

小方 直幸（東京大学大学院教育学研究科准教授）

【司会】溝上 慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター准教授）

自己啓発とキャリア形成ー教員、職員を超えてー …………… 【会場：1号館・共207】

塩川 雅美（学校法人常翔学園国際交流コーディネーター）

【司会】山本 淳司（京都大学総長室教育担当課長）

3月16日(金)

ラウンドテーブル企画 13:30~16:00

学生とともに進めるFD【会場：総合館・共北27】

企 画：木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）
 共同企画：梅村 修（追手門学院大学国際教養学部）
 大崎雄二（法政大学社会学部）
 村山孝道（京都文教大学教務課）
 大澤秀介（愛知教育大学大学教育センター）
 天野憲樹（岡山大学教育開発センター）
 話題提供：柿沼義孝（獨協大学外国語学部）
 梶浦桂司（札幌大学法学部）
 吉田 博（徳島大学大学開放実践センター）
 司 会：木野 茂（立命館大学共通教育推進機構）

高次リテラシーと批判的思考の教育【会場：総合館・共北32】

企 画：楠見 孝（京都大学大学院教育学研究科）
 話題提供：楠見 孝（京都大学大学院教育学研究科）
 沖林洋平（山口大学教育学部）
 原 塑（東北大学大学院文学研究科）
 林 創（岡山大学大学院教育学研究科）
 指定討論：道田泰司（琉球大学教育学部）
 司 会：子安増生（京都大学大学院教育学研究科）

内部質保証システムを支えるIRの可視化【会場：1号館・共311】

企 画：鳥居朋子（立命館大学教育開発推進機構）
 八重樫文（立命館大学経営学部）
 話題提供：山田剛史（愛媛大学教育・学生支援機構）
 岡田有司（立命館大学教育開発推進機構）
 川那部隆司（立命館大学教育開発推進機構）
 青山佳世（立命館大学教育学部）
 南浦聡介（立命館大学経営学部）
 川口 玄（立命館大学経営学部）
 内村 浩（京都工芸繊維大学アドミッションセンター）
 山本以和子（京都工芸繊維大学アドミッションセンター）
 森 雅生（九州大学大学評価情報室）
 指定討論：八重樫文（立命館大学経営学部）
 司 会：鳥居朋子（立命館大学教育開発推進機構）

3月16日(土)

FDプログラムにおける提供者と参加者の「ずれ」を考察する ……………【会場：総合館・共北25】

企 画：佐藤万知（東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター）
 話題提供：佐藤万知（東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター）
 田中 岳（九州大学教育改革企画支援室）
 立石慎治（東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター）
 今野文子（東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター）
 司 会：佐藤万知（東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター）

非理工系学部での新しい数学教育を目指して ……………【会場：1号館・共208】

企 画：水町龍一（湘南工科大学工学部）
 話題提供：川添 充（大阪府立大学高等教育推進機構）
 棕本 洋（立命館大学教育開発推進機構）
 矢島 彰（大阪国際大学現代社会学部）
 御園真史（島根大学教育学部）
 高橋大介（名桜大学数理学習支援センター）
 小田五月（名桜大学総合研究所）
 指定討論：浪川幸彦（相山女学園大学教育学部）
 司 会：水町龍一（湘南工科大学工学部）

FD、SD、学生FDの対話 ……………【会場：1号館・共312】

企 画：村上正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター）
 杉原真晃（山形大学基盤教育院）
 話題提供：半澤礼之（京都大学高等教育研究開発推進センター）
 日野智仁（奈良先端科学技術大学院大学企画総務課）
 赤尾辰也（佛教大学学生）
 服部憲児（大阪大学大学教育実践センター）
 指定討論：田中每実（京都大学高等教育研究開発推進センター）
 司 会：村上正行（京都外国語大学マルチメディア教育研究センター）
 杉原真晃（山形大学基盤教育院）

成果が学生にフィードバックされるFDとは

ー学生の学びの変化をとらえるー ……………【会場：総合館・共北26】

企 画：松田岳士（島根大学教育開発センター）
 岩崎千晶（関西大学教育推進部教育開発支援センター）
 話題提供：長澤多代（三重大学附属図書館研究開発室）
 香川秀太（大正大学人間学部）
 松田岳士（島根大学教育開発センター）
 岩崎千晶（関西大学教育推進部教育開発支援センター）
 指定討論：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）
 司 会：松田岳士（島根大学教育開発センター）

3月16日(金)

学生・職員と創る大学教育 …………… 【会場：総合館・共北28】

企画：清水 亮（三重中京大学現代法経学部）

橋本 勝（富山大学大学教育支援センター）

話題提供：小田隆治（山形大学地域教育文化学部・教育開発連携支援センター）

川上忠重（法政大学理工学部・教育開発支援機構FD推進センター）

三木朋乃（立教大学経営学部）

学生討論：神原由依（岡山大学医学部学生）

司 会：清水 亮（三重中京大学現代法経学部）

特色ある大学・大学院情報教育の取り組み …………… 【会場：1号館・共207】

企画：田中克己（京都大学大学院情報学研究科）

話題提供：浅野泰仁（京都大学大学院情報学研究科）

木村欣司（京都大学大学院情報学研究科）

山肩洋子（京都大学大学院情報学研究科）

前川佳一（京都大学大学院経営管理研究部）

矢作日出樹（京都大学学術情報メディアセンター）

稲葉利江子（京都大学大学院情報学研究科）

指定討論：学内外から3名程度を予定

司 会：田中克己（京都大学大学院情報学研究科）

これからの学士を育てるための人材教育 …………… 【会場：総合館・共北31】

企画：たなかよしこ（日本工業大学工学部）

話題提供：野崎造成（愛知教育大学教育学部）

小山義徳（聖学院大学人間福祉学部）

河住有希子（日本工業大学学修支援センター）

たなかよしこ（日本工業大学工学部）

瀬村江里子（松本歯科大学歯学部）

司 会：馬場真知子（東京農工大学国際センター）

参加方法等について

◆**参加資格** 大学教育関係者、もしくは大学教育に関心のある方。

◆**参加費用** 発表論文集等の資料代として1,000円を当日受付にて申し受けます。

◆**参加申込の方法**

次のいずれかの方法で、**2012年2月3日(金)**までに、

1. 高等教育研究開発推進センターのHPの入力フォームから、オンラインで申し込む。
2. 18ページのFAX用フォームを使用し、FAXにて申し込む。
3. 高等教育研究開発推進センターのHPより、FAX用フォームをダウンロードし、FAXにて申し込む。

センターHP: <http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp>

◆**情報交換会について**

初日(3月15日)午後5時半より、百周年時計台記念館2階・国際交流ホールにて、講師の先生方を囲んで情報交換会を開催いたします(会費5,000円)。

こちらに合わせて、お申し込みをお待ちしております。

会費は当日、受付にてお支払いください。

◆**お問い合わせ**

京都大学学務部共通教育推進課管理掛

730forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

(注)メールを送る場合には、件名に「大学教育研究フォーラムについての問い合わせ」とお書きください。

あさがお(ASAGAO) MLのご案内

高等教育研究開発推進センターでは、当センターに関する最新の情報をお知らせするための『あさがお(ASAGAO) ML』を設けています。

このMLでは、「公開研究会」「大学教育研究フォーラム」などのイベント開催や他の高等教育関連機関のシンポジウム、ワークショップの開催などの情報を提供しており、案内を自由に投稿することもできます。

*下記のURLから登録できます。

<http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/>

FAX: 075-753-6691 宛先: 京都大学高等教育研究開発推進センター

第18回大学教育研究フォーラム 参加申込書 (FAX用)

所 属	
職 名	
(ふりがな) 氏 名	
連 絡 先 (自宅・勤務先)	〒
電 話 番 号	
メールアドレス	<p>このメールアドレスを『あさがお (ASAGAO) ML』に登録することを</p> <p>希望する 希望しない 登録済み (○をつけてください)</p>
<p>情報交換会</p> <p>3月15日(木) 17時半～ 会費 5,000円</p>	<p>参加する 参加しない (○をつけてください)</p> <p>(注) キャンセルの方は、2012年3月9日(金) 17時までにご連絡下さい。申し込みをされて当日お越しにならない場合には、後日請求をさせていただきます。あらかじめご了承下さい。</p>
備 考	

会場地図



主な交通機関

地下鉄烏丸線・今出川駅より

市バス 203 系統「銀閣寺道・錦林車庫」行「百万遍」下車
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車

京阪・出町柳駅より

市バス 201 系統「祇園・みぶ」行「京大正門前」下車
又は、東へ徒歩約 20 分

阪急・河原町駅、京阪・祇園四条駅より

市バス 31 系統「熊野・岩倉」行「京大正門前」下車
市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車

IV-3. 大学生研究フォーラム

1. 概要

大学全入時代といわれる最近の大学教育にとって、学生をどう育てるかということが喫緊の課題となっている。大学はもはや単なる知識を習得させるだけの場ではなく、知識社会、情報化社会、グローバル社会といった新たな社会状況で力強く活躍する人材育成の場ともなっている。そのために大学は、正課・正課外教育、キャリア教育など有機的・包括的に考えていかなければならない。

大学生研究フォーラムは、高等教育における教授学習やファカルティ・ディベロップメントの実践的研究組織・京都大学高等教育研究開発推進センターと、大学生・大学院生への奨学制度で、社会に貢献する有用な人材育成を目指す公益財団法人電通育英会が、現代大学生の姿を正確に理解し、かつ現代社会を力強く生きていける学生を育てるために開催するものである。

大学生研究フォーラムは、特別経費「大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成」の国内連携事業の一つとして運営されている。

本年度（第4回、名称は「大学生研究フォーラム 2011」）は、3年に一度実施している「大学生のキャリア意識調査 2010」の報告をおこなう年であったことをふまえて、「結局私たちは、大学生調査から実践に何を伝えるのか」と題する年度テーマを、次に述べるシンポジウムで総合的に検討した。

また、本年度は3つの大きな拡張をおこない事業を発展させた。第一に、共催校に東京大学大学総合教育研究センターを加えて、運営組織の拡張をおこなったことである。第二に、これまで一方通行的な講演形式のフォーラムから、参加者同士が議論をおこなう「参加者ダイアログ」を導入したことである。実施形式の拡張である。第三に、株式会社学研教育みらいの協力を得て、参加対象者を大学、企業等の関係者だけでなく高校教諭にまで拡張したことである。これはとくにキャリアデザインが大学入学以前の状態と密接に絡んでいる調査結果をふまえてのことである。こうして二日目には、従来型の一日目の議論をふまえた「高校教諭のためのシンポジウム」を新たに設けた。

このような結果、毎年 250-300 名弱の参加者だった大学生研究フォーラムは、本年度は 427 名の参加者数となった。150 名近く増加したことになる。

2. プログラムの特徴

2-1. 一日目のプログラム

大学生研究フォーラムは毎年、①基調講演、②講演、③事例報告、④パネルディスカッションから構成して実施されるが、本年度は②を廃止し、③④をセットにしたシンポジウム形式の統合プログラムを実施した。本年度のテーマ、登壇者は下記のとおりである。

①**基調講演** 大学生の学習やキャリアに関する研究を一段階高い視野へと導いてくれるリーダー的役割を担った識者、あるいは論者に登壇していただき、今後の大学生研究の方向性やヴィジョンへの示唆をいただくことを目的としている。本年度は、和田秀樹氏（国際医療福祉大学大学院教授、精神科医）に、「大学受験の今日的、社会的意義—大学に何を求めるか」というテーマで基調講演をおこなってもらった。

②**シンポジウム** 本年度は、「結局私たちは、大学生調査から実践に何を伝えるのか」を年度テーマとしていたので、それにもとづく報告を2件おこない、それらについて3件コメントをもらった。そして、上述した「参加者ダイアログ」をおこなった。

■報告

- ・溝上慎一（京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授）
「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係」
- ・下村英雄（独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員）
「大卒者の初期キャリアと大学の学びを媒介するもの」

■コメント：

- ・豊田義博（リクルートワークス研究所主任研究員）＜大学生とキャリア形成の立場＞
- ・浦坂純子（同志社大学社会学部教授）＜労働経済学の立場＞
- ・鳥居朋子（立命館大学教育開発推進機構教授）＜高等教育全体の立場＞

■パネルディスカッション：

上記の報告・コメントを受けて、大学教育改革、キャリア教育の専門の識者に自由に討論してもらうことを目的としている。一日の振り返り、総括となることも目的としている。パネリストとして以下の3氏を招聘した。

- ・吉見俊哉（東京大学大学総合教育研究センター長/副学長）＜高等教育全体の立場＞
- ・松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター教授）＜学習論の立場＞
- ・川崎友嗣（関西大学社会学部教授）＜キャリア教育の立場＞

2-2. 二日目のプログラム

午前中と午後の2つのセッションに分けた。午前中は、一日目プログラムを受けて、高校教諭との議論である。一日目の登壇者として、浦坂純子先生、中原淳先生、そして溝上が参加した。

午後のプログラムは、高校現場からの報告とそれをもとにしたパネルディスカッションである。

- ・三浦隆志（岡山県立勝山高校教頭）
「生徒の成長の契機とキャリア教育のありかた」
- ・村上育朗（岩手県立花巻東高校教頭）
「岩手県沿岸5校の学力向上連携事業と被災地からのメッセージ」

の両先生より報告を頂き、

- ・三浦隆志
- ・村上育朗

- ・奥村弘史（滋賀県立膳所高校進路指導主事）
- ・鈴木徹也（埼玉県立総合教育センター教育主幹兼主任指導主事）

の4名でパネルディスカッションをおこなった。フロアーとも活発な議論がおこなわれた。

3. 大学生研究フォーラム 2011 を振り返って

1. で述べたように、本年度は3つの大きな拡張をおこない事業を発展させた。第一に、共催校に東京大学大学総合教育研究センターを加えたこと、第二に、参加者ダイアログを導入したこと、第三に、「高校教諭のためのシンポジウム」を二日目に新たに設けたことである。参加者数の大幅な増加もさることながら、これまで若干バラバラだった個々のプログラムがつながりあって内容が深まったことが何よりよかった。高校の現場で思う以上に、キャリア教育が浸透していない実態もよく見えてきた。来年度の課題としたい。

正課教育における学業とキャリアをつなげて本格的に議論する場は、全国を見渡してこの大学生研究フォーラム以外にはほとんどないと思われる。その意味で、このフォーラムの場は貴重である。フォーラムをこれからも開催することで、学業とキャリアの架橋をさらに検討し、実践的に浸透させていくべく尽力していきたい。

4. 付録資料

『大学生研究フォーラム 2011』のプログラム並びに講演録（web 上で公開）
（<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/forum/>）

（溝上 慎一）



京都大学・東京大学・電通育英会共催

大学生研究フォーラム2011を開催しました

大学生研究フォーラム2011は無事終了いたしました。

・次回開催予定のフォーラム2012のご案内は、3月頃を予定しています。

[大学生研究フォーラム2011 開催要項](#)

[登壇者のプロフィール](#)



現代大学生の学びとキャリアをデータと実践を架橋して理解する

大学全入時代といわれる最近の大学教育にとって、学生の学びと成長をどのように考え、実践していくかが喫緊の課題となっています。大学はもはや単なる知識を習得させるだけの場ではなく、知識基盤社会、情報化社会、グローバル社会といった新たな社会状況で力強く生きていくための人材育成の場ともなっています。そのためには、正課・正課外教育、キャリア教育、大学生活など、全体的(holistic)な視点で学生を育てていくことを考える必要があります。

高等教育に関する基礎的調査・研究をおこない、かつ教授学習・カリキュラム、FD(ファカルティ・ディベロップメント)の実践的支援を行う組織・京都大学高等教育研究開発推進センターと、大学生・大学院生への奨学制度で、社会に貢献する有用な人材育成を目指す公益財団法人 電通育英会は、現代大学生の姿を正確に理解し、かつ現代社会を力強く生きていく学生を育てるために大学教育全体で求められている課題は何かを徹底的に検討するべく、大学生研究フォーラムを開催いたします。

2011年度からは、新たに東京大学大学総合教育研究センターも共催に加わり、より大きな体制でこのフォーラム作りに臨みます。

大学短大・高専など高等教育機関で教育改革、FD、キャリア教育等に携わっておられる教職員等関係者、高校で進路指導・キャリア教育等に携わっておられる教員等関係者、企業の人事部、コンサルタント等の方々、そしてこのテーマに関心ある学生さんなど、多くの皆様にご参加いただきたくここにご案内させていただきます。

2011年4月

京都大学高等教育研究開発推進センター長 田中 每実

東京大学大学総合教育研究センター長 吉見 俊哉

公益財団法人 電通育英会 理事長 松本 宏

大学生研究フォーラム2011 開催要項

開催日: 2011年8月1日(月)
 会場: 京都大学百周年時計台記念館 1階・大ホール、2階・国際交流ホール
 案内状: [大学生研究フォーラム2011 開催のご案内 \(PDF 2.6MB\)](#)

開催スケジュール

10:00～11:30 開会・特別講演

特別講演

「大学受験の今日的、社会的意義—大学に何を求めるか」

和田 秀樹(国際医療福祉大学大学院 教授、精神科医)

11:45～13:00 昼食兼交流会

13:00～16:35 シンポジウム

13:00～13:15 イントロダクション

ファシリテーター: 中原 淳(東京大学大学総合教育研究センター 准教授)

13:15～14:15 報告

「育てる教育力学と支援する教育力学の相補的關係」

溝上 慎一(京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授)

「大卒者の初期キャリアと大学の学びを媒介するもの」

下村 英雄(独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員)

14:15～15:00 コメント

豊田 義博(リクルートワークス研究所主任研究員)〈大学生とキャリア形成の立場〉

浦坂 純子(同志社大学社会学部教授)〈労働経済学の立場〉

鳥居 朋子(立命館大学教育開発推進機関教授)〈高等教育全体の立場〉

15:20～15:45 参加者ダイアログ

15:45～16:25 パネルディスカッション

16:25～16:35 小括

「大学生調査と教育実践との関係」を振り返る

中原 淳(東京大学大学総合教育研究センター 准教授)

16:45～17:25 総括パネルディスカッション

総括パネルディスカッション

吉見 俊哉(東京大学大学総合教育研究センター長)

川崎 友嗣(関西大学社会学部 教授 キャリアデザイン担当主事)

松下 佳代(京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)

司会: 大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)

17:25～17:30 閉会の挨拶

登壇者のプロフィール(登壇順)

IV-3. 資料1



和田 秀樹(わだ ひでし)氏
国際医療福祉大学大学院 教授、精神科医

1985年東京大学医学部卒業、東京大学医学部付属病院精神神経科助手、アメリカ、カール・メニングガー精神医学校国際フェローを経て現職。映画監督、評論家としても活躍している。



中原 淳(なかはら じゅん)氏
東京大学大学総合教育研究センター 准教授

東京大学大学院 学際情報学府 准教授(兼任)。東京大学、大阪大学大学院 人間科学研究科をへて、文部科学省メディア教育開発センター助手、マサチューセッツ工科大学客員研究員、2006年より現職。



豊田 義博(とよだ よしひろ)氏
リクルートワークス研究所 主任研究員

東京大学理学部卒。リクルート入社後、新卒採用戦略、広報計画業務を経て、就職情報誌の編集長を歴任。現在は研究員として、組織・人材マネジメント、労働市場の未来形、などを探索している。



溝上 慎一(みぞかみ しんいち)氏
京都大学高等教育研究開発推進センター 准教授

1996年京都大学高等教育研究開発推進センター助手、2003年より現職。自己形成論、青年心理学、学生の学びを中心としたFDと大学生研究を行っている。



浦坂 純子(うらさか じゅんこ)氏
同志社大学社会学部 教授

大阪生まれ。1998年、大阪市立大学大学院経済学部研究科博士課程修了。博士(経済学)。松山大学経済学部、同志社大学文学部を経て、学部変更により2005年より現職。



下村 英雄(しもむら ひでお)氏
独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。博士(心理学)。心理学の見地からキャリア教育をはじめ、キャリアガイダンスのあり方について、若者の進路選択や就労意識に関わる研究を行う。



鳥居 朋子(とりい ともこ)氏
立命館大学教育開発推進機構 教授

名古屋大学高等教育研究センター専任講師、アメリカ・ハーバード大学客員研究員及びミシガン大学高等・ポストセカンダリー教育研究センター客員研究員。2009年から現職。



吉見 俊哉(よしみ しゅんや)氏
東京大学大学総合教育研究センター長

1957年東京生まれ。東京大学教養学部卒。2004年、同大学院情報学環教授。2006年、同学環長。2010年より現職、教育企画室長。専攻は社会学、メディア論、文化研究。



川崎 友嗣(かわさき ともつぐ)氏

関西大学社会学部 教授 キャリアデザイン担当主事

日本労働研究機構研究員を経て、1997年関西大学社会学部助教授、2003年より現職。専門は職業心理学、キャリア心理学。近年は特に若年者のキャリア自立に関する研究を行なっている。



松下 佳代(まつした かよ)氏

京都大学高等教育研究開発推進センター 教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。京都大学教育学部助手、群馬大学教育学部助教授、京都大学高等教育教授システム開発センター助教授を経て、2004年より現職。



大塚 雄作(おつか ゆうさく)氏

京都大学高等教育研究開発推進センター 教授

東京大学理学部・教育学部卒、東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得。1996年同教授、2000年大学評価・学位授与機構教授を経て、2004年より現職。

問い合わせ先

京都大学高等教育研究開発推進センター 溝上研究室

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

TEL: 075-753-3047

FAX: 075-753-3045

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>

東京大学大学総合教育研究センター(担当:中原)

TEL: 03-5841-7829

<http://www.he.u-tokyo.ac.jp/>

電通育英会 事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル4F

TEL: 03-3575-1386

FAX: 03-3575-1577

IV-4. FD ネットワーク代表者会議（JFDN）

IV-4-1. 第4回会議の概要

平成23年9月13日（火）、FD ネットワーク代表者会議（JFDN）の第4回会議が、同場所 芝蘭会館別館研修室にて開催された。北は北海道から、南は九州まで、全国15のFD ネットワークの代表が参集し、それぞれの活動の現状と課題について報告し合った。その後、高橋浩太郎氏（文部科学省 高等教育局 大学振興課 学務係長）よりコメントをいただき、それを皮切りに、今後のFD ネットワークについてのあり方、課題について議論が行われた。教職協同（FD とSD の連携）の問題、予算的サポートが望みにくい今後のFD ネットワークの運営のあり方など、新たな課題についても取り上げられ、熱心な議論が時間をややオーバーするまで切れ目なく続いた。FD ネットワークにとっては、前途多難な時代ではあるが、各ネットワークの取組の充実、また、相互の情報交換の場をもつことを通して、次の段階へのステップアップの可能性を感じさせる勢いも感じることであった。

1. 参加者

北海道地区FD・SD 推進協議会

細川 敏幸（北海道大学 高等教育推進機構 教授）

いわて高等教育コンソーシアム

佐藤 洋一（岩手医科大学 医学部 教授）

江本 理恵（岩手大学 大学教育総合センター 准教授）

国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点

関内 隆（東北大学 高等教育開発推進センター 副センター長／教授）

東日本地区大学間FD ネットワーク・つばさ

小田 隆治（山形大学 高等教育研究企画センター 教授）

障害者高等教育拠点

石原 保志（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター センター長／教授）

看護学教育研究共同利用拠点

松田 直正（千葉大学大学院 看護学研究科附属看護実践研究指導センター 特任助教）

文部科学省

高橋 浩太郎（文部科学省 高等教育局 大学振興課 学務係長）

大学コンソーシアム石川

青野 透（金沢大学 大学教育開発・支援センター 教授）

林 透（北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセンター 特任助教）

福井県学習コミュニティ推進協議会（F レックス）

坪川 武弘（福井工業高等専門学校 教授）

山川 修（福井県立大学 学術教養センター 教授）

FD・SD 教育改善支援拠点

夏目 達也（名古屋大学 高等教育研究センター 教授）
 全国私立大学 FD 連携フォーラム
 安岡 高志（立命館大学 教育開発推進機構 教授）
 大学コンソーシアム京都
 林 久夫（龍谷大学 理工学部 教授）
 川面 きよ（大学コンソーシアム京都専門研究員（FD））
 山陰地区 FD 連絡協議会
 森 朋子（島根大学 教育開発センター 副センター長／准教授）
 四国地区教職員能力開発ネットワーク（SPOD）／教職員能力開発拠点
 秦 敬治（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授）
 九州地域大学教育改善 FD・SD ネットワーク：Q-Links
 田中 岳（九州大学 教育改革企画支援室 准教授）
 相互研修型 FD 共同利用拠点
 田中 每実（京都大学 高等教育研究開発推進センター センター長／教授）
 大塚 雄作（同 教授）
 松下 佳代（同 教授）
 溝上 慎一（同 准教授）
 酒井 博之（同 特定准教授）
 半澤 礼之（同 特定助教）
 高橋 雄介（同 特定助教）
 田口 真奈（同 准教授）
 及川 恵（同 特定准教授）
 田川 千尋（同 特定助教）



FD ネットワーク代表者会議（JFDN）第4回会議 集合写真

2. プログラム

時間	プログラム	内容
10:30	受付開始	芝蘭会館 別館研修室
11:00 ～ 11:15	開会挨拶 趣旨説明	開会挨拶：淡路 敏之 (京都大学教育担当理事・副学長) 趣旨説明：大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)
11:15 ～ 12:30	FDネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題Ⅰ	〔発表 各10分〕 1. 田中 岳 (九州大学) 「かたらしてえQ-Links 2011」 2. 秦 敬治 (愛媛大学) 「教職員能力開発拠点 (愛媛大学教育企画室) と四国地区大学教職員能力開発ネットワークとの連携によるプログラム開発・実施体制の確立・強化」 3. 森 朋子 (島根大学) 「山陰地区FD連絡協議会 2011 報告」 4. 安岡 高志 (立命館大学) 「全国私立大学FD連携フォーラム (JPFF) 概要について」 5. 大塚 雄作 (京都大学) 「相互研修型FD共同利用拠点この1年」 6. 細川 敏幸 (北海道大学) 「北海道地区FD・SD推進協議会の活動」
12:30 ～ 13:30	フリーディスカッション・昼食	研修室にて弁当昼食の予定
13:30 ～ 15:30	FDネットワークおよび教育関係共同利用拠点の現状と課題Ⅱ	〔発表 各10分〕 7. 石原 保志 (筑波技術大学) 「障害者高等教育拠点ー聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築ー」 8. 林 久夫 (龍谷大学) 「大学コンソーシアム京都の連携FD活動」 9. 夏目 達也 (名古屋大学)

		<p>「名古屋大学FD・SD教育改善支援拠点の2011年度活動方針」</p> <p>10. 坪川 武弘（福井工業高等専門学校） 「福井県でのFD連携 4年目の活動」</p> <p>（休憩）</p> <p>11. 松田 直正（千葉大学） 「看護学教育研究共同利用拠点看護実践研究指導センターにおける現状と課題・今後の展望」</p> <p>12. 青野 透（金沢大学） 「大学コンソーシアム石川（UCI）FD・SD活動の展開」</p> <p>13. 小田 隆治（山形大学） 「FDネットワーク“つばさ”の現在」</p> <p>14. 関内 隆（東北大学） 「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」</p> <p>15. 佐藤 洋一（岩手医科大学） 「いわて高等教育コンソーシアムにおける大学間連携FDネットワーク」</p>
15:45 ～ 16:45	ディスカッション	<p>コメント：高橋 浩太郎（文部科学省）</p> <p>司会：大塚 雄作（京都大学）</p>
17:00	記念撮影・解散	

（大塚 雄作、及川 恵、高橋 雄介）

IV-4-2. 第4回FDネットワーク代表者会議を終えて

2011年9月13日（火）11:00～17:00、京都大学芝蘭会館別館（国際交流会館）2階研修室1において、プログラムに示されたように、全国から15のFDネットワーク、教育関係共同利用拠点の代表者が集まり、第4回FDネットワーク代表者会議（Japan Faculty Development Network : JFDN）が開催された。今回は、1日の会合とし、昨年同様、それぞれのネットワークの状況を報告し合い、情報共有の機会をもった。また、文科省から、昨年に引き続き、高橋浩太朗高等教育大学振興課学務係長にフル参加していただき、コメントをいただいた。それに引き続き、1時間ほどのディスカッションの時間を持ち、今後のFDネットワークのあり方について1時間ほどのディスカッションの時間をもった。

今回のJFDNは、2011年3月11日に勃発した東日本大震災・原発事故という国家規模の緊急事態の下、また、昨年度来の「仕分け」によるGP関係予算の削減などに代表される緊迫した財政状況の下で、予算的、人的リソースを必要とするFDネットワークを今後どのように展開していくことができるのかという問題意識が参加者の根底にあったかと思われる。FD義務化に伴って、期限付きの予算的な措置がなされたFDネットワークに関わるプロジェクトも中盤を過ぎて、次の体制を考えなければならない厳しい時期に入ってきたと言えるが、各FDネットワークより報告された活動内容は、その積み重ねが質量共に充実してきており、それぞれ刺激的で、情報共有の場として、有効な情報が豊富に与えられたという感を例年に増して強く受けた。しかし、財政基盤が弱体化する背景に対する危機感は、いくつかのFDネットワークから直接訴えられ、今後どのように、そのような意義のあるFDネットワークの活動を維持していくのかということも、JFDNで議論していくべき大きな課題として浮き彫りにされたと言えよう。

そこで、その課題に関するいくつかの方向性を、以下で少し整理しておくことにしたい。

まず、一つの行き方は、財政的、あるいは、人的リソースの効率的相互活用という趣旨で動き出したFDネットワークであるが、元来、FDとは、各大学のローカリティに即して実施していくべきであり、FDネットワークで培われた共有財産を活用しつつ、それぞれの大学にFD活動を戻していくという方向性が考えられよう。本来、これができるのが筋であると思われるが、FDネットワークを動かしてみても気づくことの一つに、各大学のFD担当の教員が2年くらいで変わってってしまうということがある。これは何を意味するかというと、FD活動に関して経験豊かな教員が一般にはなかなか育っていかないということである。その意味で、JFDNに参加しているようなFDネットワークを担っているような人材は、比較的長期にわたってFD活動の経験も豊富であり、その経験は、FDに関しては素人とも言えるべき数年ごとに変わる各大学の新たなFD担当教員をサポートするという点で重要な役割を果たしていくであろう。おそらく、一部の大学を除いて、この構図は長期にわたって残っていくものであって、今後もFDネットワークの意義の一つとして位置づけられていくのではないと思われる。

FDに関する情報ソースや、また、経験豊富な人からのコンサルティング、あるいは、同種の教育に関わっている教員どうしのコミュニティ形成などに関しては、Web等のICT活用を図ることが考えられる。その基盤は、例えば、京大のセンターで開発しているMOST (Mutual Online System for Teaching & Learning) など、いくつかの利用できるシステムが既にあるが、この種のシステムが十全に機能を発揮するのは、全国の教員、あるいは、教員集団が、FDや教育改善

への関心を共有しているという前提を満たす必要がある。まだその域に達していない教員が多いと思われるなか、そういった Web 等の情報源に自らアクセスし、継続的に活用してくれるということは、ごく一部の教員に限られてしまうことになる。MOST においても、その壁をどのようにして崩していくことができるのか、今はむしろ、その点が重要な課題となっている。ただ、MOST などのシステムを維持していくためには、やはりそれなりの人的、予算的リソースの準備が必要となるわけで、そういった部分への継続的支援は、それこそ予算の効率的な活用という点でも（断ち切れてしまっただけに構築したシステムへの経費の無駄遣いということにもなる）、重要なポイントになることでもあろう。

この点に関しては、大学コンソーシアムなどがそうしているように、各大学がある規定に従って、人的リソース、予算的リソースを拠出し合うという方策が第一に考えられよう。例えば、大学コンソーシアム京都の活動が全国的にも目立つのは、京都には国公私の大規模大学がかなりの数が揃っていて、相当のリソースを拠出し合い、専任の職員がコンソーシアムの活動に専念できるということがあるという点が大きいのではないと思われる。四国の大学連合などでも、各大学からそれ相応のリソース分担をお願いしているということであった。

関西地区 FD 連絡協議会では、参加校は毎年 2 万円の会費を拠出すると規定され、その範囲で継続してきているが、代表幹事校としての京大のサポートが不可欠であり、そのサポートは我々のセンターの特別経費プロジェクト『大学教員教育研修のための相互研修型 FD 拠点形成』による、予算的、人的リソース（特定教員、事務補佐員等）の存在が欠かせないという状況にある。一方で、この程度の額の拠出金でも、大学によっては拠出が難しいという場合もあるようであり、十分な活動をするためには、やはり、一部の大学の大きな負担に依存せざるを得なかったり、あるいは、GP などの予算的バックアップの継続が本来であれば望まれるということとは否めないところであろう。

もちろん、GP 等の文科省からの予算措置等は、期限付きであることは事前からわかっていることであり、その終了後に大学自身はその取組に対して、継続の必要性があるのであれば、予算的にも人的にも、学内的な措置をしていくことが前提となっていることは当然であるが、全体的に予算の削減が現実にも起こり、加えて、人的にも「定員シーリング」方式による効率化が進められるなか、FD 活動や FD ネットワークに、一つの大学でそれらにリソースを振り分けることはそう容易なことではなくなっているという時代状況もある。そういうことなしに、FD が日常的に浸透していくのであれば、むしろそれが FD の根本的なあり方でもあるのだが、残念ながら、現状、そのレベルで FD が全国の大学に共有されているとは言いがたい。また、とりわけ、大学間連携ということに関しては、一つの大学で対応しきれるものでもそもそもないということもあり、FD を義務化した以上、現在の状況下において、国策としての対処法を講ずることも急務ではないかと思われる。

ただ、我々大学人としては、大学教育のあり方は、我々自身で考え、我々自身で動かしていくべきことであり、国策を待つということは得策ということにはならないだろう。その意味で、FD ネットワーク間の情報交換、情報共有の場である JFDN は、今後も重要な役割を果たしていくことになるだろう。各地域での FD ネットワークの取組は、一つの実験として位置づけられ、単なるシミュレーションとは違ったリアリティをもって、FD ネットワークの活性化、また、継続化に有効な方策を共有していくことにつなげていくことも可能であろうし、また、場合によっては、FD ネットワーク間の連携による効率的な取組などの生起などにまでつながっていく可能性を秘めていると思われる。

ここで、「FD ネットワーク」とは何かということ、今一度整理しておく必要が生ずるか

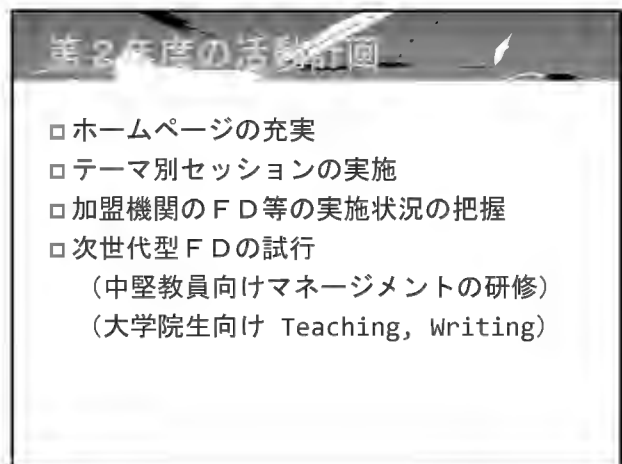
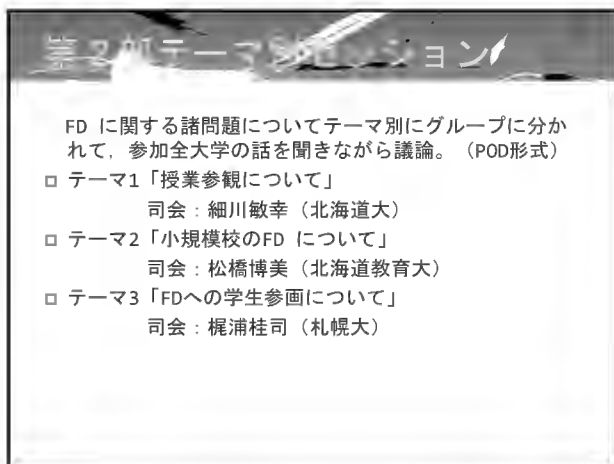
もしれない。というのは、FD ネットワークと一口で言っても、FD のみを対象としていない大学間連携である大学コンソーシアムのネットワークもあれば、FD に関わってネットワークが組織されている場合もあれば、また、2010 年度より始まった FD・SD センターとしての教育関係共同利用拠点という立場もまた違った機能が期待されているものであり、FD に関わる共通的な役割と共に、そのそれぞれにおいての独自性を浮き彫りにしていくことも今後求められていくであろう。それによって、それぞれの役割を明らかにし、適材適所の分担と連携を図る工夫をしていくことは、限られたリソースのなかでは、より一層必要とされていくことになるだろう。

そのなかで、教育関係共同利用拠点の位置づけが見えにくいということがやや懸念されることである。それをどのように発展させていくのかに関しては、文科省の方からその方向性が見えてこないというのが正直なところであるし、もちろんその点は各拠点で前向きに動いていくだけのことであるが、現在の厳しい状況にあつては、創設から 5 年経った 2015 年度には継続すら危ぶまれる印象さえ受け、なんとも落ち着かない。以上のように見てくると、大学独自の努力、また、各 FD ネットワーク独自の努力ということはもちろん重要な前提となるが、それらを支える拠点の安定化を図ることはその基盤として重要な位置づけがなされるべきことではないかと思われる。その上で、それぞれのネットワークの役割分担と連携が促進されるということにもなるのではないか。そして、その一つに、JFDN という場も位置づけられていくのではと思う。

こうした諸々の動きを支えていくためには、鶏か卵かということにはなるのであるが、やはり、FD ネットワーク自体の成果をわかりやすく示していくこと、引いては、各大学の FD の状況、FD の成果をわかりやすく示していくことが求められることになるだろう。FD 評価の課題は、JFDN でも毎年話題になるところであるが、その点についての議論も積み重ねていく時期に来ているように思われる。

いずれにしても、今回もまた、ほぼすべての FD ネットワークの代表者が一堂に会する機会を持てたことは、それを担当してきた者にとっての望外の喜びであり、その継続と発展を期して、次年度もまた企画・実行していこうというエネルギー源となっている。その意味でも、本後記の最後に、ご多忙のなかを遠方より参集して下さった FD ネットワークの代表者の方々をはじめとして、JFDN の準備に当たって、細々した点で献身的に動いてくれた、京都大学高等教育研究開発推進センターの若手スタッフ、及び、補佐員の方々に、記して心よりの感謝の意を表しておきたい。

(大塚 雄作)



- 2011年 3月19日 「大学生の発達障害の理解と対応」【旭川大学】
- 2011年 3月10日 FD講演会「学習評価とGPAについて」【北見工業大学】
- 2011年 3月 9日 FD講演会【室蘭工業大学】
- 2011年 3月 4日 北海道情報大学 教育GP成果報告フォーラム【北海道情報大学】
- 2011年 2月21日 平成22年度第3回札幌医科大学 FD教育セミナー【札幌医科大学】
- 2011年 2月25日 北星学園大学 FD研修会【北星学園大学】
- 2010年12月 9日 室蘭工業大学 大学改革セミナー2010【室蘭工業大学】
- 2010年12月 8日 釧路工業高等専門学校FD講演会【釧路工業高等専門学校】
- 2010年12月 7日 札幌市立大学「海外研修旅行報告」【札幌市立大学】
- 2010年12月 4日 札幌学院大学総合研究所・FDセンター合同シンポジウム
【札幌学院大学】
- 2010年 3月25日 平成21年度北海道内4高専連携による技術職員のSD研修会
【釧路工業高等専門学校】
- 2010年 3月24日 札幌市立大学FD研修会【札幌市立大学】
- 2010年 3月18日 UCバークレー校の講師による大学教員養成研修講座【北海道大学】

- 協議会主催共同企画の検討
POD形式の報告討論会を今年も実施予定
- 海外の大学の調査
- 新たな研修プログラムの発展
次世代FD（対象者：大学院生、中堅教員）
- データベースの充実

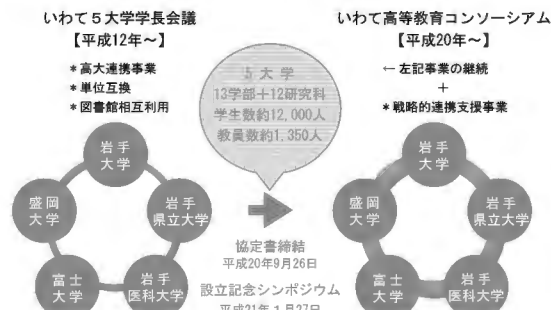
いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

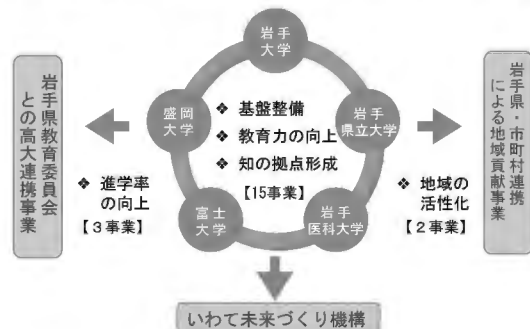
1 コンソーシアムの設立の経緯



いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

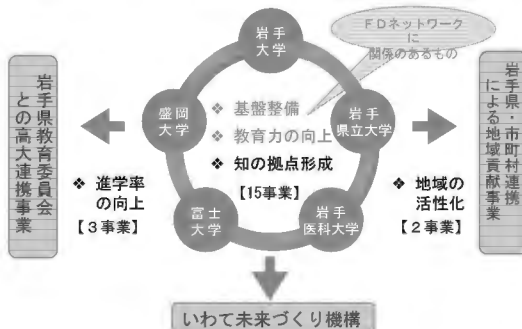
2 事業概要：5つの取組20の事業（平成20年度～平成22年度）



いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

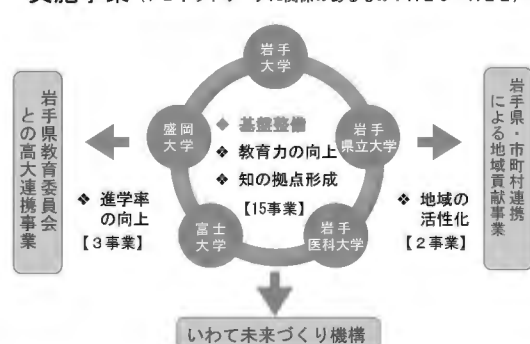
2 事業概要：5つの取組20の事業（平成20年度～平成22年度）



いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）



いわて高等教育コンソーシアムにおける 大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤洋一

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）

- ◆ 取組1：教育研究環境の基礎整備（1/2）
- * 授業学習支援システム「アイアシスタント」導入：盛岡大学 [H21.3] & 富士大学 [H21.12]
 - * いわて情報ハイウェイの整備と遠隔講義（TV会議）システムの構築
 - 2008年（H20）ノーベル物理学賞受賞者 益川敏英先生講演を配信 [H21.6.13]：岩大→盛大&医大
 - 岩手医科大学医・歯・薬学部合同特別講義を配信 [H21.6.10, 10.2, 10.30, 11.13]：医大→岩大
 - FD講演会（国立教育政策研究所 川島啓二氏「大学教育の革新とFDの新展開」）を配信 [H21.12.18]：岩大→医大&盛大&富士大 他



いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

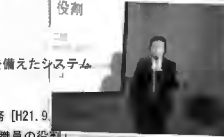

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）

◆ 取組1：教育研究環境の基盤整備（2/2）

◆ ラーニングシステムの構築
→ 講義の収録及び配信、理解度テスト、アクセス管理機能などを備えたシステム

◆ SD研修の共同実施

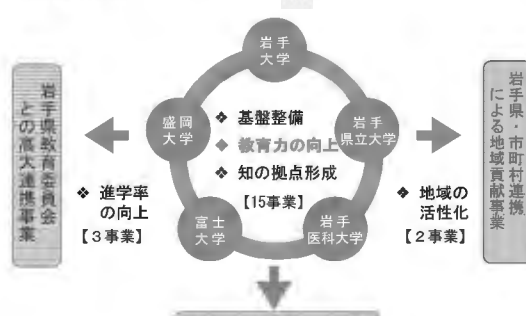
- SD合宿研修会：SD担当者向け研修 [H21.3.5-6]、研究協力業務 [H21.9.17]
- SD講演会&演習：熊本大学 大森不二雄教授「変革する大学と職員の役割」及び外部資金獲得にかかるグループワークの実施 [H21.11.9]
- SD研修会：「学生支援業務に関する能力の向上に向けて」（外部研修業者利用） [H22.9.17]
- FD・SD合同研修会：愛媛大学 奥敬治准教授「大学教職員のための企画力養成講座～教職協働を目指して～」 [H22.11.29]

いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）



いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）

◆ 取組2：教育力の向上（1/2）

◆ FD研修の共同実施

- 岩手医科大学主催の医学教育ワークショップ「カリキュラムプランニング」 [H21.7.17-18]へ連携校から参加：医大、岩大&県大
- 岩手大学主催のFD合宿研修会「学士力の育成と問題解決型授業の導入」 [H21.8.20-21]へ参加：岩大、医大&盛大
- FD講演会&勉強会：国立教育政策研究所 川島啓二氏の講演後に勉強（意見交換）会を実施 [H21.12.18]
- FD研究会：京都大学田中実氏による話題提供とFDに関する意見交換を実施。 [H22.3.5]
- 合同FD合宿研修会「学生とともに考える『大学教育』」 [H22.8.26-27]
- FDキャラバン：岩手県立大学FDワークショップへの参加





いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

3 実施事業（FDネットワークに関係のあるもの：H20～H22）

◆ 取組2：教育力の向上（2/2）


◆ 特色ある講義の充実
→ 5大学のH22年度開講科目の中から特色ある講義として35科目を選定

◆ 学生の地域参加型プロジェクトの実施：以下の5件を採択

- 岩手医科大学医学部（3年他20名）「地域医療の実態調査～医療系大学の学生の視点から～」
- 岩手県立大学社会福祉学部（4年他5名）「STEP（ステップ）」（発達障害児への支援活動）
- 岩手県立大学総合政策学部（4年他5名）「大学生の参加による観光資源を活用した地域経済活性化のための研究」→180コースエコー「岩手をほっとけない！」コーナーで放映 [H21.10.22]
- 岩手県立大学社会福祉学部（3年他6名）「光るどろだんご作り指導者養成講座」（高齢者と保育者対象）
- 岩手県立大学社会福祉学部（4年他5名）「地域勉強会～ホームレス支援ボランティアから感じたもの～」

◆ 教育の国際化

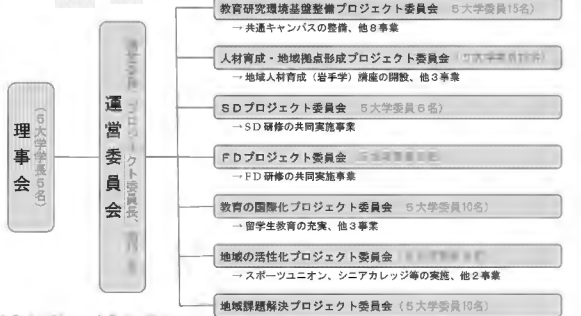
- ヤングリーダーズ国際研修「食と持続可能な社会」（タイ、韓国、中国から学生及び教員計17名が参加）を実施 [H21.2.18-27]
- ヤングリーダーズ国際研修「農産物の適正価格と持続可能な社会」（タイ、韓国、中国、アイスランドから学生及び教員計15名が参加）を実施 [H21.8.26-9.4]



いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

4 実施体制（平成20年度～平成22年度）

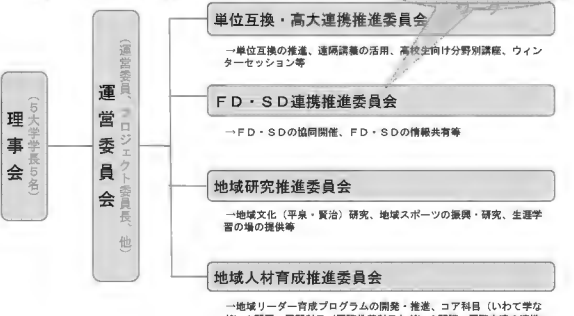


◆ 上記委員会89名＋各委員会担当事務職員96名＝のべ185名が参画

いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 佐藤淳一

5 新・実施体制（平成23年度～）



◆ 岩手県内の大学のFD・SDネット

いわて高等教育コンソーシアムにおける
大学間連携FDネットワーク

平成23年9月13日：岩手医科大学 後藤洋一

6 FD・SD連携推進委員会（平成23年度～）

* 主務校：岩手医科大学

→ 委員長：佐藤洋一（岩手医科大学）

副委員長：後藤尚人（岩手大学）・土田和長（富士大学）

5大学の11名の委員、11名の事務担当者から構成

* FD合宿研修会の合同実施

→ 岩手大学とFD合宿研修会を共催。「地域の復興に

貢献できる教育機関の在り方を考える」というテーマ

地域リーダー育成プログラムについて議論しました

[H23. 8. 25・26]

* FD・SD共通研修会の実施

→ 「大学教職員のためのメンタルヘルスケア研修会

岩手医科大学さんにて開催予定。[H23. 10. 21]

* FD・SD関連情報の共有



国際連携を活用した大学教育 力開発の支援拠点

東北大学高等教育開発推進センター
関内 隆

報告内容

- * 活動の目標と特徴
- * 平成22年度活動概要①組織整備
- * 平成22年度活動概要②調査研究
- * 平成22年度活動概要③PDプログラムの開発
- * 平成22年度活動概要④PDプログラムの実施
- * 平成22年度活動概要⑤成果の刊行
- * 今後の展望：成果と課題

活動の目標と特徴

- * 目標：教員のキャリアに対応した専門性開発プログラムの提供
- * 大学院生の大学教員準備プログラム(PFFP)
- * 初期キャリア教員向けプログラム
- * 大学教育マネジメント人材育成プログラム
- * 大学職員能力開発プログラム
- * こうしたプログラム提供を支える調査研究の推進

活動概要①組織整備

- * 組織整備：大学教育支援センターの設置と専任教員2名を配置(23年度に1名追加)
- * 高等教育センター内で大教センターの活動を推進するためにスムーズな運営体制敷く
- * 学内外・海外への宣伝・広報：拠点発足記念シンポジウム(6月23日)、国際シンポジウム(8月24日)などの開催
- * 利用者登録システム導入(平成23年1月現在、481名)

活動概要②調査研究

- * 調査研究の推進：研究開発員、東北地域各大学の協力を得て共同調査実施
- * ①大学教員調査の実施：東北地域大学教育推進会議の協力を得て実施
- * ②大学教授職調査の実施：文部科学省委託調査「諸外国の大学教授職調査」
- * ③また、国内外のPFF調査、大学管理職調査、初修外国語に関する学生・教員調査、職員対象PD開発への取り組み、履修証明制度の検討を実施

活動概要③PDプログラムの開発

- * 教員のキャリア・ステージに対応したプログラムの開発
- * ①PDプログラムの枠組み設定：「高等教育リテラシー形成」「専門教育指導力形成」「学生支援力形成」「マネジメント力形成」の4ゾーン・13のカテゴリーを設定
- * ②プログラム開発について学内公募を実施
33件のプログラム開発構想を採択(一部は22年度実施、大半は23年度以降の実施)

活動概要④PDプログラムの実施

- * PFFPの開発および実施:UCバークレーならびにメルボルン大学への派遣プログラム実施
- * UCバークレーのセミナーに大学院生5名、教員3名参加。メルボルン大学のセミナーには大学院生8名、教員5名の参加
- * 派遣準備プログラムの実施:「学生および新任教員向けセミナー」、セミナー「英語で授業を」
- * PDプログラムの枠組みに沿った各種セミナー、シンポジウム等の実施(計43回)

活動概要⑤成果の刊行

- * ①東北大学出版会から「高等教育ライブラリ」シリーズを刊行
『教育・学習過程の検証と大学教育改革』
『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』
- * ②PDブックレットの刊行開始
『すてきな大学教員をめざすあなたに』
- * ③『発達障害学生に対する学習・キャリア支援—大学と社会の連帯—』

今後の展望:成果と課題(1)

- * 平成22年度には医学系研究科、国際文化研究科等の大学院生がPFFPに参加
- * 今後、文学・理学・工学研究科など伝統的な研究科の学生参加促進の必要
- * 工学教育論、語学教育論など学問領域に即した教育内容、教材の開発がこれから求められる
- * PFFPにマイクロティーチングなどの授業実習を取り入れ、プログラム内容を充実させる予定

今後の展望:成果と課題(2)

- * 教育マネジメントを担う中核人材の専門性開発が課題
- * 平成23年度以降の取り組みとして「大学教育マネジメント人材育成プログラム」を実施
- * 平成23年度公募では10名採択、そのうち他大学関係者は7名を採択
- * プログラム内容の全国的な提供のために、放送大学ICT活用・遠隔教育センターと提携した活動を予定

今後の展望:成果と課題(3)

- * 日本の大学教育全体の水準を向上させるために、東北大学に期待されていることが何かを把握する必要性
- * 他の教育関係共同利用拠点や各大学の教育センター等とどのような関係を構築すべきかを検討
- * 今後、諸外国の大学、高等教育機関と連携を強化するために今後取り組むべく方策は何かを検討

FDネットワーク代表者会議

FDネットワーク“つばさ”の現在

2011年9月13日
山形大学 教育開発連携支援センター
小田隆治

山形大学のFDの特徴

■公開性

■共有化

「地域ネットワークFD“樹氷”」

- “つばさ”の前身
- 平成16年設立
- 山形県内の6つの国公立大学・短大による
大学間連携FD組織
- 平成16年度現代GP採択事業

「FDネットワーク“つばさ”」の構想

- ◆「地域ネットワークFD“樹氷”」で培ってきた大学間連携FDのノウハウを県外の大学等に拡大する。
- ◆受験生確保が競合しない離れた大学間で協調できる。
- ◆大規模なネットワークによって、共有できる教育資源を増やすことができる。
- ◆専門性が合致する大学間でFDを発展させることができる。

「FDネットワーク“つばさ”」

- ◆北海道・東北・関東の主に私立の大学・短大そして高専を対象。
- ◆2008年(平成20年)3月に設立し、3年半が経過する。
- ◆当初、参加校は34校でスタートし、その後順調に増加し、現在48校となる。

広がるネットワーク

加盟校:47校
(平成23年8月現在)

北海道
札幌大学、札幌大学女子短期大学
道庁教育振興課
道庁大学校
道庁大学校附属大学
道庁大学校附属短期大学
道庁大学校附属専門学校
道庁大学校附属専門学校

東北地方

山形大学

山形大学女子短期大学

山形大学附属大学

山形大学附属短期大学

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

山形大学附属専門学校

FD Network
"TSUBASA"



「FDネットワーク“つばさ”」の活動

- ◆「FD協議会」の開催
- ◆統一フォーマットによる「授業評価アンケート」
- ◆「FDワークショップ」や「FD合宿セミナー」の公開
- ◆「FDシンポジウム」の実施
- ◆「学生FD会議」の実施
- ◆「合同FD研修会」の実施
- ◆「ホームページ」の作成と公開
- ◆「報告書」の作成と配布

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(1)

「FD協議会」の開催

○第5回FD協議会

- ・平成22年5月22日(土)
- ・山形大学(山形県山形市)
- ・32校、54名参加

○第6回FD協議会

- ・平成23年2月12日(土)
- ・了徳寺大学(千葉県浦安市)
- ・30校、64名参加

「第5回FD協議会」の第二部： FDワークショップ「“つばさ”の可能性を探る」

- 6人×8班でグループディスカッション、全体発表
- 課題：①今年度、来年度に実施したいFD/SDの内容
②5年以内に実施したいFD/SDの内容
③理想的な大学間連携のあり方
- ワークショップの評価：4.97(高い満足度)(ポストアンケートによる)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(2)

統一フォーマット(山形大学方式)による 「授業改善アンケート」

- 北海道から関東までの大学・短大・高専14校
- 合計：27万枚(山形大学5.2万枚を含む)
- コストは3.28円/枚

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(3)

山形大学「第10回FD合宿セミナー」

- 平成22年8月2日(月)～4日(水)
- 1泊2日の合宿を2回実施
- 授業設計、シラバスの作成、コーチング、プレゼンテーション
- 全国40大学等、65名(山形大学22名含む)の参加

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(4)

山形大学「第12回FDワークショップ」

- 平成22年8月6日(月)10時～16時半
- 基調講演：「教育から学習へ：高等教育のパラダイム転換」
神戸大学 川嶋太津夫 教授
- ラウンドテーブル：①「基盤教育における科学教育」
筑波大学 小笠原正明 特任教授
②初年次導入科目の成果と課題
③学生主体型授業の冒険
- 全国30大学等、87名(山形大学42名含む)の参加

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(5)

「学生FD会議」

- 平成22年8月21日(土)13時半～18時
- 会場:札幌大学(札幌市)
- コーディネーター:梶浦桂司(札幌大学)、杉原真晃(山形大学)
- テーマ:「学生発信の大学改善～学生たちが出来ること～」
- 北海道から千葉まで17大学等(北海道から9大学等)、45名の参加(学生27名を含む)

平成22年度「FDネットワーク“つばさ”」の活動(6)

「大学間連携SD研修会」

- 平成22年9月9日(木)9時半～18時
- テーマ:「OJTによる大学事務改善」
- 北海道から沖縄まで75大学等、135名の参加
- この研修会を通して、ビデオ教材「コントすてきな大学事務名場面集」を作成

現 状

○コストパフォーマンスが高くなるように設計とし、実際、限られた人材と予算の中で高い成果を出していると自負している。

○山形大学中心からの脱却を図るために、協議会を首都圏で、学生FD会議を北海道で開催した。

課 題

○設計の範囲内では、大きく困ったことはない。

- ・担当職員の部署の移動が心配。
- ・経験を積んだ3年任期の事務補佐員の退職が心配。

○これからも2月には関東圏の大学で協議会を開催したいが、引き受けてくれる大学探しに困っている。

- 専門分野による分科会を設置したいと考えているが、
- ・ニーズはあるが、実際には動かない。
- ・逼迫したニーズではないようだ。

これからの展望

○当面いまの活動を継続しながら、てくてく歩いていく。

○好機が到来したら、また走り出す。

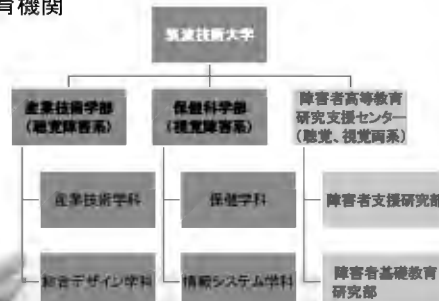
fin.

障害者高等教育拠点 ー聴覚・視覚障害学生のイコールアクセス を保障する教育支援ハブの構築ー

筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター長
石原保志

筑波技術大学

- ・聴覚・視覚障害者を対象とする我が国唯一の高等教育機関



障害者高等教育研究支援センターの業務

- ・聴覚・視覚障害学生の障害にかかわるさまざまな支援(能力開発/システム開発)
- ・聴覚・視覚障害者の在学する全国の大学等に対する相談支援(学外支援)
- ・聴覚・視覚障害者の高等教育プログラムの開発研究及び教育実践(基礎教育)
- ・教職科目の検討と授業等の実践(教職課程)

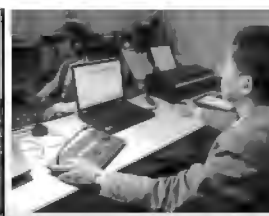
コミュニケーション指導分野(聴覚系)1

手話コミュニケーション指導

- ・新入生等への手話指導
- ・新任教職員への手話研修
- ・情報保障に関するコンサルティング

聴覚管理・補聴相談

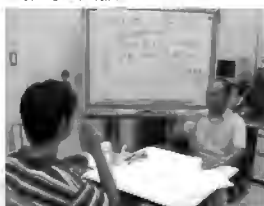
- ・個々の学生の聴覚管理
- ・補聴器フィッティング



コミュニケーション指導分野(聴覚系)2

個別コミュニケーション指導

- ・スピーチに関する指導
- ・状況に応じたコミュニケーション方法に関する指導と支援
- ・就職活動に備えた面接等に関する指導と支援



コミュニケーション指導領域(視覚系)1

視覚障害補償機器の整備 拡充と貸出し



ロービジョン講演会・遮光眼鏡 講演会等の開催



コミュニケーション指導分野(視覚系)2

点字指導

- ・点字技能指導
- ・視覚障害補償機器の操作指導



多様な相談事例に個別対応

- ・聴力低下した視覚障害学生を対象とした支援
- ・視野狭窄学生を対象とした病院実習向け支援。
- ・進行性の眼疾患のある学生を対象とした個別の点字指導

支援技術開発(聴覚系)

リアルタイム字幕提示システム

だいたいと書いています。
てこれからも時々筑波大学の学生時代を思い出し自分の人格をさらに高また働きをかせてくださるで。

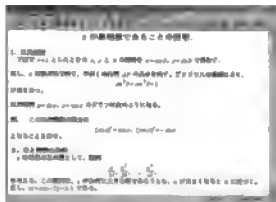
東京で入力した字幕をインターネット経由でリアルタイム送信



スピードワープ研究所

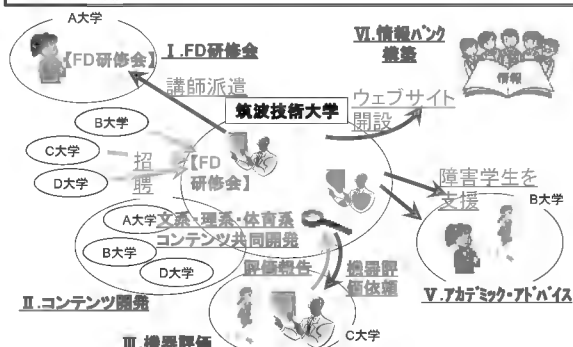
支援技術開発(視覚系)

- ・理数系点訳システム
- ・点字プリンタ等の開発



他大学支援について

聴覚・視覚障害学生のイコールアクセスを保障する教育支援ハブの構築



事業内容とロードマップ

作業項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
I. FD研修会の実施				
研修会開催スケジュールの作成・準備				
授業者支援FD講座の開設				
II. 教育コンテンツの開発				
授業者・学生教育コンテンツの開発				
授業者・学生教育コンテンツ・その他の開発				
授業者・学生教育コンテンツの開発・普及				
III. 教育支援機関の整備と開発				
授業者・学生の支援体制の整備構築				
情報基盤環境の整備および機器整備				
機器評価情報の収集及び教員等のユーザビリティ指導検討				
授業者・学生の情報保障関連ワークショップ・調査等の開催				
IV. アカデミック・アドバイザ体制の整備				
アカデミック・アドバイザの配置とスキル指導				
アカデミック・アドバイスの提供体制整備				
個別訪問・テレビ会議等によるアカデミック・アドバイスの提供				
V. 専門的スキルを有する教育支援者の養成				
効果的な養成方法に関する検討と養成講座の試行実施				
養成講座の実施と専門的スキルの開発				
VI. 障害者支援のための情報バンク構築				
障害者支援FDサイトの構築				
ネットワークの連携・情報交換				
機器評価情報サイトの構築				

聴覚障害:ネットワーク構築

- ・聴覚障害学生支援のための拠点形成プロジェクト(*T-TAC*)
- ・ネットワーク形成
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(*PEPNet-Japan*)



詳しくは WWW.PEPNet-J.org

聴覚障害:教材・支援コンテンツ作成

- ・ノートテイク, 支援体制構築



聴覚障害:相談対応

- ・ノートテイクの養成・派遣
- ・予算・人材の確保
- ・支援に必要な備品購入
- ・補聴関連の情報・支援
- ・FD・SDへの講師派遣等



聴覚障害:情報交換・研修会

- ・全国障害学生支援コーディネーター研修会
- ・情報交換会



聴覚障害:モバイル機器による情報保障支援

●iPhone用



実習等



●携帯電話用

ターサイエンスなどが発達して、メカニズムによって驚異とびんが精神とていうようなものを素直に作り出

小学3年のルビ表示

すべてのものを覚え、そのような考え方は自然と多量に導き込んでいくといふことだ

小学6年のルビ

視覚障害:障害補償機器データベース

本学所有の視覚障害補償機器を他大学に貸出し、有効性を評価...235製品(国内最大規模)
VISS-Net参加58校に貸出対象大学を拡大。



視覚障害: 情報・理数ネットワーク

目的: 情報・理数系分野の学習資料の確保
首都圏の六つの点訳グループ

情報系: 38タイトル 理数系: 16タイトル



視覚障害: マルチモーダル図書制作

視覚障害の状況に応じ「活字版, 点字・触図版, 音訳版, 電子版」の四つの形態で提供

『天文学入門』

『韓国語点字入門』



視覚障害: 触図作成研修会

情報・理数系の書籍で多用される図表や
グラフを触図化することができる人材育成



視覚障害: 教材・支援コンテンツ作成

情報・理数・語学, 触図など制作ガイド



詳しくは <http://www.ntut-braille-net.org/>

看護学教育研究共同利用拠点 看護実践研究指導センター における 現状と課題・今後の展望



看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

1. センター概要 看護実践研究指導センターの沿革

- 1975年 看護学部看護学科 設置
1979年 大学院看護学研究科 設置
1982年 附属看護実践研究指導センター 設置
生涯を通じた継続的な看護教育のあり方、高齢化社会に対応した看護のあり方、病院組織の複雑化に対応した看護管理のあり方など実践的課題に対応するため看護系大学の教員や医療施設の看護職者を対象に「看護実践研究指導センター」として看護学部を設置された
1993年 大学院看護学研究科博士後期課程 設置
2002年 大学院看護学研究科看護システム管理学専攻(独立専攻) 設置
2005年 認定看護師教育課程(乳がん看護)として社団法人日本看護協会に認定された
2007年 組織の再編3研究部から2研究部(ケア開発研究部、政策・教育開発研究部)
2009年 大学院部局化に伴い、看護学研究科附属となる
2010年 看護学教育研究共同利用拠点として文部科学省に認定された

看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

1. センター概要 教育関係共同利用拠点一覧

拠点類型	大学名	施設名	拠点名	認定時期
大学の教員間の横断的な連携等の実施機関	京都大学	高等教育研究開発推進センター	相互研修型FD共同利用拠点	平成22年4月
	愛媛大学	教育・学生支援情報教育企画室	教職員能力開発拠点	平成22年4月
	東北大学	高等教育開発推進センター	国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点	平成22年4月
	筑波技術大学	障害者高等教育研究支援センター	障害者高等教育拠点	平成22年4月
	千葉大学	看護実践研究指導センター	看護学教育研究共同利用拠点	平成22年4月
	岐阜大学	医学教育開発研究センター	医学教育共同利用拠点	平成22年4月
	名古屋大学	高等教育研究センター	FD・SD教育改善支援拠点	平成22年4月

(平成23年4月1日現在)

看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

2. 看護実践研究指導センター事業 研修

- 看護学教育指導者研修
「看護学教育指導者研修」は、看護系大学の臨床実習施設の看護職者を対象としています。施設と大学をつなぐ「組織変革の核となる人材育成」に貢献しています。
- 看護学教育ワークショップ
平成11(1999)年から看護学教育ワークショップを実施しています。本ワークショップは、看護系大学の看護学教育カリキュラムをより充実させることを主な目的として、文部科学省からの助成を受けて行われてきました。平成22年度は、教育改善を推進していく教員の力を組織的に集めることを目的とし、各大学の理念や教育方法を尊重しながら、看護系大学教員が共通に遇するべき要件を検討し、「教員の教育力、実践力、研究力、協働力を組織的に高める」ために、意見を集約し策定に向けての方向を整理します。
- 国公私立大学病院副看護部長研修
国公私立大学病院副看護部長研修は、日本の医療の現状を踏まえて、大学病院の上級看護管理として自施設の組織変革に向けたビジョンを描くこと、その実現に向けた計画を立案・実施・評価することを通して、上級看護管理として必要な実践的能力を高め、大学病院の看護の充実を図ることを目的として、平成18(2006)年度より実施しています。
研修は、自施設の組織変革に向けた課題を抽出し、院内外の分析を通して、実践計画を立案・実施・評価する演習が中心となります。
- 国公私立大学病院看護管理者研修
大学病院は、その特性を踏まえつつ、高度医療としての機能を十分に発揮し社会の期待に応えていくためには、看護部長等看護管理者の体系的な管理能力の研充が重要となります。
本研修は、看護部長等大学病院の看護管理者が、大学病院の特性を踏まえつつ看護管理に必要な知識を修得し、体系的な管理能力を高め、大学病院の看護の充実を図ることを目的として開催しています。
- 認定看護師教育課程(乳がん看護)
平成17(2005)年、看護実践研究指導センターに乳がん看護認定看護師の教育課程が設置されました。以来、わが国唯一の乳がん看護認定看護師を教育する課程として、100名を超える乳がん看護認定看護師を輩出しています。

看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

2. 看護実践研究指導センター事業 プロジェクト①

- 教育—研究—実践をつなぐ
組織変革型看護職育成支援プログラムの開発プロジェクト
平成22年度から取り組んでいる本プロジェクトは、看護学教育の高度化と、看護系大学の急増に伴い、大学教育に相応しい臨床実習施設や実習指導者の確保が困難になってきている背景から、立案に至りました。これらの背景は、看護学生の看護実践能力、及び看護職の次世代育成機能の低下と密接に結び付き、新人看護職の離職の増加→中堅看護師の疲弊→組織環境—更なる実習施設・実習指導者の不足という悪循環を招いている恐れがあります。悪循環は組織問題であり、もはや個人レベルの自己研鑽や課題解決ではなく、組織変革を推進できる人材育成支援が必要であり、これを解決するためのプロジェクトが必要であると考えました。
プロジェクトの概要は、以下の通りです。
- 事業概要 教育—研究—実践の連携を目指した臨床実習施設の組織変革に取り組む看護職育成支援プログラムを開発する。そのプログラムにより支援を受けた看護職が看護の独自性・専門性を強化し、組織変革を推進することによって、看護の臨床現場の組織問題の解決、看護学教育環境の整備を促進する。
- 目的 教育—研究—実践の連携を目指した組織変革に取り組む看護職育成支援プログラム開発を通じて、組織変革の核となる人材育成支援を実施し、看護の臨床現場の組織問題の解決、看護学教育環境の整備を促進する。
- 取組内容 (1)看護実践研究の推進
①看護の独自性・専門性を可視化するリフレクション・フレームワークの開発
②日本型看護教育—実践連携診断・評価ツールの開発
(2)看護職育成支援プログラムの開発
(3)組織変革支援型研修事業の実施
(4)情報収集・蓄積・発信

看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

2. 看護実践研究指導センター事業 プロジェクト②

- 看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用促進

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センターでは、平成23年度から、「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用促進」プロジェクトに取り組みます。このプロジェクトは、医療の高度化に伴って大学化が急速に進んでいる看護学教育において、その特質を踏まえた体系的なファカルティ・ディベロップメント(以下、FDという)のプログラム(以下、FDマザーマップという)およびFDプランニング支援データベースを開発することを目的としています。開発したFDマザーマップを大学間で共同活用できる体制を構築することにより、各看護系大学が高等教育における看護学教育の特質を踏まえた有効なFDを計画的に企画・実施・評価できるよう支援してまいります。プロジェクトの概要は、以下の通りです。

- 目的 本事業の目的は、各看護系大学が高等教育における看護学教育の特質を踏まえた有効なFDを計画的に企画・実施・評価できるよう支援することである。この目的を達成するため、以下の2点の目標を掲げる。
1. 高等教育における看護学教育の特質を踏まえた体系的なFDマザーマップおよびFDプランニング支援データベースを開発する。
 2. 開発したFDマザーマップを看護系大学間で共同活用できる体制を構築し、全国6ブロックの幹校の研修をうけた教員(ファカルティ・ディベロッパー)により推進体制を構築する。

以降、本年度より開始となった本プロジェクトについて述べてます。

看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

3. 現状と課題



3. 現状と課題



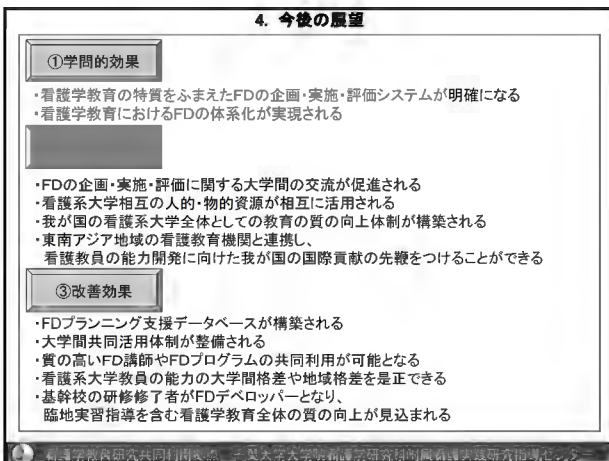
4. 今後の展望



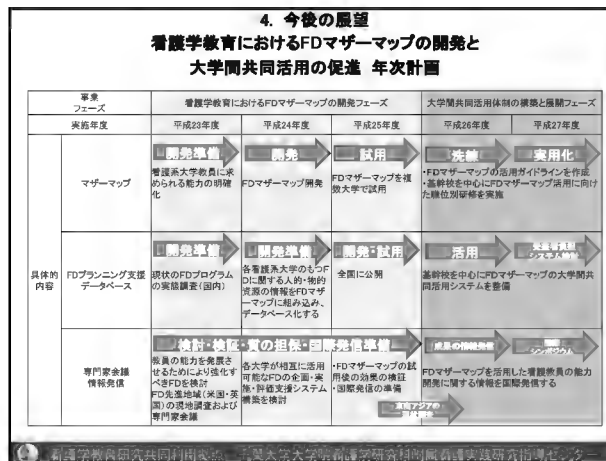
4. 今後の展望



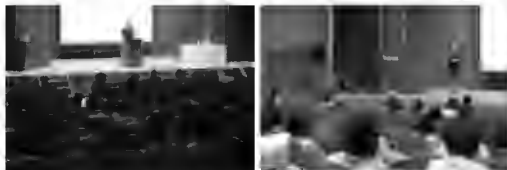
4. 今後の展望



4. 今後の展望



5. 看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト 初年度の活動①



平成23年6月28日(火)、「看護学教育におけるFDマザーマップの開発」プロジェクトが本年度より開始となったことを記念して、第1回全学FDマザーマップ研究会を開催しました。全学から77名の参加者をお迎えしました。

・基調講演 大学教育の革新とFDマップ
川島 哲二
国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官、日本高等教育開発協会会長、大学教育学会常任理事、初年次教育学会理事

・Trends in American Nursing Higher Education and Faculty Development from a Dean's perspective
Betty Broeze Harden, PhD, RN, FAAN
Dean and Professor University of San Diego, Hahn School of Nursing and Health Science

プログラム

・Trends in American Nursing Higher Education and Faculty Development: A Researcher's Fresh Perspective
Cynthia D. Connolly, PhD, RN, FAAN
Professor University of San Diego, Hahn School of Nursing and Health Science

・看護学教育におけるFDマザーマップの開発
北池 正
看護実践研究センター長

5. 看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進プロジェクト 初年度の活動②



平成23年7月22日(金)、「看護学教育におけるFDマザーマップの開発」第1回全学FDマザーマップ研究会を開催しました。会議のメンバーは、外部から高等教育の専門家4名、看護学教育の専門家7名をお迎えし、千葉大学大学院看護学研究科教員4名、附属看護実践研究指導センター教員6名を併せた21名から構成されています。

第1回会議では、本プロジェクトの概要、看護学教育の現状、既に開発されているFDマップの概要について確認後、看護学教育に特化したFDマザーマップ開発に向けた課題および開発の方向性について検討しました。

今後、平成23年度中に会議を2回開催し、看護系大学教員に求められる能力の明確化、現状のFDプログラムの実態調査を進め、看護学教育におけるFDマザーマップ開発に向けた基盤を構築する予定です。

大学コンソーシアム石川(UCI) FD・SD活動の展開

FDネットワーク代表者会議

2011年9月13日

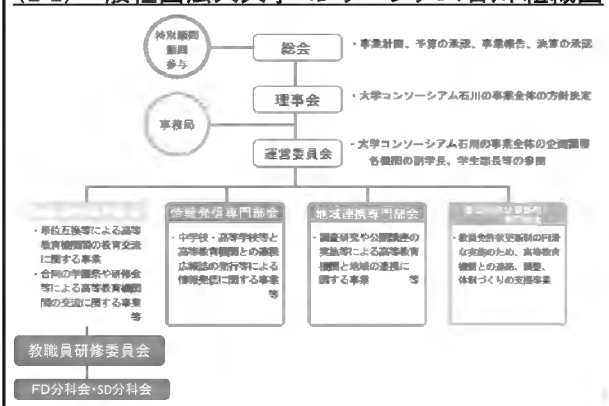
大学コンソーシアム石川教職員研修委員会
青野 透(金沢大学)

林 透(北陸先端科学技術大学院大学)

概要

- (1) 大学コンソーシアム石川の組織と活動拠点
- (2) FD・SD事業の実施主体(教職員研修委員会)
- (3) これまでの実績
- (4) 今年度の事業実施と計画
- (5) FD・SD事業の新展開
- (6) FD・SD事業に対する要望(ニーズ)
- (7) 今後の課題と展望

(1-1)一般社団法人大学コンソーシアム石川 組織図



(1-2)大学コンソーシアム石川(UCI)
参加高等教育機関 20

金沢大学
北陸先端科学技術大学院大学

石川県立看護大学
石川県立大学
金沢美術工芸大学

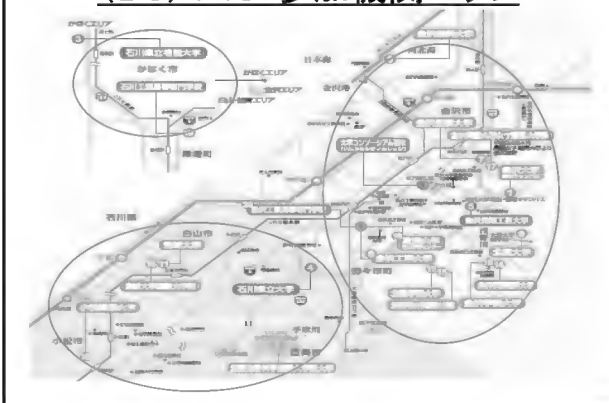
金沢工業大学
金沢星稜大学
金沢医科大学
北陸大学
金沢学院大学
金城大学
北陸学院大学

金沢学院短期大学
北陸学院大学短期大学部
金城大学短期大学部
星稜女子短期大学
小松短期大学

石川工業高等専門学校
金沢工業高等専門学校

放送大学

(1-3) UCI 参加機関マップ



(1-4) UCIの活動拠点

- ・石川県政記念しいのき
迎賓館(セミナールーム)
- ・石川四高記念文化
交流館(多目的利用室)



- ・アクティブラーニング教室
- ・テレビ会議システム
- ・UCIポータル

(2) UCI教職員研修委員会

2011年4月～2012年3月（過渡的措置）

FD分科会

委員長：青野 透（金沢大学）
副委員長：林 透（北陸先端科学技術大学院大学）
副委員長：富岡和久（北陸学院大学）

SD分科会

委員長：川上正文（金城大学）
副委員長：青野 透（金沢大学）
副委員長：林 透（北陸先端科学技術大学院大学）

※4月上旬に第1回委員会を共に開催。

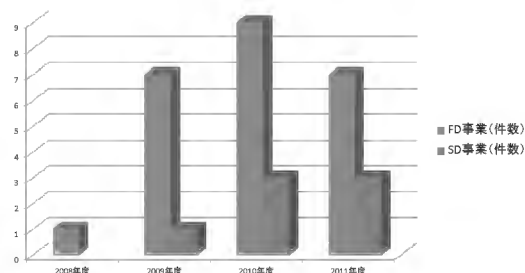
戦略的大学連携支援事業採択プログラム（H20～22） 事業報告書より抜粋

【FD・SD支援体制の構築】

各機関のニーズを吸い上げ、各種機関の性質に合わせた各種FDや時宜に合したFD・SDを次々と実施してきた。特に小規模大学では単独でFD・SDを行うことが難しいため、合同FD・SDは評判がよく、非常にたくさんの参加者を得ることができた。また、テレビ会議システムも利用し、FDを遠隔の高等教育機関に送信する活動もおこなった。

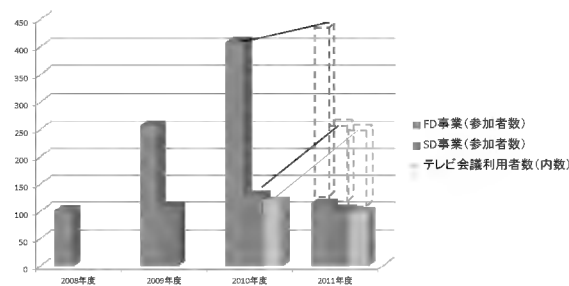
⇒ 当初の目的・目標に対して想定以上の成果が上がったと、評価することができる。

(3-1) FD・SD事業実績（実施件数） 2008-2011年度



（注）2011年度は実施予定件数を含む。

(3-2) FD・SD事業実績（参加者数） 2008-2011年度



（注）2011年度の参加者数は8月末時点のものであり、点線箇所は予想数を表示。

(3-3) 2010年度事業実績

開催月	内 容	開催場所	参加人数
6月	第1回FD・SD研修会「発達障害学生への支援を考える」	セミナールームB	40名
7月	第2回FD・SD研修会「学生の質実力・主眼力を伸ばすために」 ※事前アンケート結果、別紙資料を配付	#	43名
	第3回FD・SD研修会「戦略GPで開発した教材の紹介と活用のご案内」	#	16名
8月	第4回FD・SD研修会「大学・短期大学等における教育情報の公表について」 ※事前アンケート結果、別紙資料を配付	#	89名
9月	第1回SD研修会「大学教職員の基礎知識」	セミナールームA	45名
	短大FDフォーラム「短期大学のキャリア教育等について」	広坂庁舎 教養1	37名
10月	FDフォーラム「初年次教育とカリキュラムポリシー」	金沢大 サラライト	61名
	第5回FD・SD研修会「教職員のメンタルヘルスとストレスマネジメント」	セミナールームB	10名
12月	SDフォーラム「大学職員への期待 ―自律性と組織力―」	生涯学習センター	73名
12月	第6回FD・SD研修会「これからのキャリア教育」 ※事前アンケート結果、別紙資料を配付	西高記念 文化交流館	25名
1月	第7回FD・SD研修会「発達障害学生支援と高大連携」	セミナールームB	39名
2月	第8回FD・SD研修会「第二サイクルを迎える認証評価と教育情報公表義務化」	同上	59名

(3-4) UCI-SDフォーラム2010



(4-1) 2011年度事業実績(1)

- 第1回FD・SD研修会(5月20日(金) 18:00~19:30 TV会議3校)
「学生の学習意欲を高め、双方向授業を展開するためのクリッカー活用術」
講師:金沢大学 青野 透 教授
- 第2回FD・SD研修会(6月24日(金) 18:00~20:00 TV会議3校)
「高等教育機関の風評リスク対策とコミュニケーション戦略」
講師:(有)エンカツ社 宇於崎 裕美 代表取締役社長
- 第3回FD・SD研修会(7月8日(金) 18:00~19:30 TV会議4校)
「戦略GPで開発した教材の紹介と活用のご案内」
講師:金沢大学 足立 由美 講師

(4-2) 2011年度事業実績(2)

SDワークショップ2011(7月30日(土) 14:00~17:30)
「集まろう大学職員! 一問題意識を共有するために」



関係学会とのタイアップ戦略

- SD事業における大学行政管理学会中部・北陸研究会との連携(共催実施)
- 2009年度 SD研修会
2010年度 SDフォーラム2010
2011年度 SDワークショップ2011
(⇒大学行政管理学会定期総会・研究集会(9・3-9・4、@金城大)のプレイベントとして実施)

(4-3) 2011年度事業 今後の予定(1)

- 第4回FD・SD研修会(9月16日(金) 18:00~20:00)
「京都地域18大学・短期大学によるFD連携事業 ~京都FD開発推進センターの挑戦~」
講師:一橋大学 深野 政之 特任講師
- 第5回FD・SD研修会(10月中旬予定)
「カリキュラムポリシー(CP)、ディプロマポリシー(DP)策定のためのフレームワーク(仮題)」
講師:神戸大学 川嶋 太津夫 教授
- 第6回FD・SD研修会(11月中旬予定)
「大学経営の成長戦略(仮題)」
講師:京都学園大学 西井 泰彦 理事長

(4-4) 2011年度事業 今後の予定(2)

- SDフォーラム2011 (12月上旬)
「大学職員に必要な力量形成(仮題)」
講師:学外講師及び
大学コンソーシアム石川加盟機関職員
- 第7回FD・SD研修会(1月予定)
「ラーニング・コモンズ(仮題)」
講師:大学コンソーシアム石川加盟機関教職員

(5) FD・SD事業の新展開(2010年度~)

- 「FD・SD研修会」
夜間(18時~)開催
テレビ会議システム(最大5会場)
- フォーラム、ワークショップ形式
イベントの積極的実施

(6) UCI加盟機関教職員の声の反映

【教員の声(FD)】

- 新しい学習理論に基づいた教育方法、教授法を支える理論を踏まえた具体的な事例紹介
- 障害学生支援, 引きこもりなど問題をかかえた学生の支援
- 大学の経営や教育に関する情報の公開

【職員の声(SD)】

- 体験型研修, 基礎知識に関する研修の実施
- 汎用性の高い研修については定期的に実施
- 合宿形式の研修の実施

18

(7) 今後の課題と展望

ニーズに応じたテーマ設定

⇒ワークショップ

⇒プログラム化

⇒積極的参加者の拡充

⇒各機関コアメンバーとのネットワーク形成

⇒各機関教職員を研修講師として育成

時宜に適ったテーマ設定

例「教育情報公表」「発達障害学生支援」

高等教育機関別テーマ設定

例 高等専門学校のFD・SD支援

FD・SD関連学会との連携

19

参考: 国の施策におけるFD・SD

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/science/detail/___icsFiles/afieldfile/2011/08/19/1293746_02.pdf

第4期科学技術基本計画

平成23年8月19日

閣議決定

20

国は、大学が、教員の教育面での業績を可視化して多面的に評価し、人事や処遇に反映する取組、教員に対するFD(ファカルティディベロップメント)の実質化、自己研鑽機会の充実等を通じ、教員の意識改革を進めることを期待する。

21

国は、大学・・・が、・・・専門性の高い職員の配置等の体制の強化を進める・・・ことを奨励する。国は、これらの取組を支援する。

国は、大学が、計画的なSD(スタッフディベロップメント)によって、研究活動の推進に関わる人材の養成と確保を進め、事務局体制を強化することを求める。

22

福井県でのFD連携 4年目の活動

第4回FDネットワーク代表者会議 2011年9月13日
フレックス FDチーム
福井高専 坪川武弘
tubokawa@fukui-nct.ac.jp

これまでのフレックスの概略

- 2008年(10月)より
 - ✦「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」(戦略的大学支援事業)として6大学・短大・高専で出発
 - ✦ 学習コミュニティの形成, ICT基盤の整備, 共同のFD活動, 地域との連携を目的
- 2010年度までに, フレックス全体として
 - ✦21回の研究会と6回のシンポジウム
 - ✦6800名以上のSNS登録(170件/日の書き込み)やLMS上の170以上のコース開設, 学生チームによるRT会やLT会の開催など, 多くの企画・活動をしてきた。

FD活動についてのまとめ

- 人的な連携の環を3年間で築き上げ, 相互の支援と底上げをしてきた。
 - ✦ 合同の研究会の開催
「学生理解と学生支援について」「学生による授業アンケートを考える」「高等教育のあり方」「公開授業と授業改善の取り組み」「学習評価・GPAの導入と学資力保証」
 - ✦ 合宿研修会の開催(2010年9月)「学生理解」「学生支援」30名の参加
 - ✦ その他
合同の公開授業, 共通学生理解アンケートの実施, FDチーム定例会化
- 具体的な教育課題解決へ向けての取り組みが求められている。
 - ✦ 課題の解明だけでなく, 改善方策の提起につながる議論を
 - ✦ 企業・地域・学校との連携の弱さ, SD活動は手つかず

フレックスの今後

- 「連携の継続と更なる発展へ向けて活動すること」を確認した。
- 「連携事業」の終了(2011年3月)後の財政面での対応
 - ✦ 負担金(大学30万, 高専20万, 短大15万) 制度と福井県からの支援
 - ✦ ただ, SNS, LMS等のICT基盤維持のための費用しか工面できていない。
- 今後の連携発展へ向けて
 - ✦ 学長・校長によるシンポジウムの開催, 関係者の理解とトップの主導
 - ✦ 福井大学のより積極的な関わりを追求
 - ✦ 実際には, 事務局体制, 実務面での人手の足りなさがある。

2011年度のFD活動

- 今後の方向性(3年間程度)の確認, 「相互研修型」での推進
(1) 各校の独自FD活動, (2) 協働のFD活動, (3) 他との連携, (4) FD資料の蓄積, (5) 人的連携
- 今年度の課題
 - ✦ 共同の研究テーマとして
「キャリア支援・教育」「ビデオを用いた授業録画と公開」「学習評価・学資力保証」
 - ✦ 第2回フレックス合宿研修会を夏に開催すること
 - ✦ 学生理解アンケートのWEB実施, 継続した分析ができるようにすること
 - ✦ FDチームの会議を定例的にもつ。

今年度の活動 1

- シンポジウム「福井県の大学連携の今後」開催(6月3日), 80~100名の参加
 - ✦ 小松審議官(文部科学省)の記念講演とパネルディスカッション
 - ✦ 大学・短大・高専の学長・校長と大学私学振興課長パネリストとして登壇
 - ✦ 県内の高等教育機関のトップが一同に会した。



今年度の活動 2

2. 第2回合宿研修会の開催 (8月26-27日) 35名以上の参加

- ◆セッション1 「専門分野と対話力を考える」
「どう伝える? 国民との科学・技術対話」加納主 水町衣里 (京都大学)
「アメリカにおける新しい数学教育 —すべての子どもにとって接近可能な数学教育をめざして—」佐分利豊 (福井大学)
- ◆セッション2 スキルアップ講座「伝える力を養う —サイエンスコミュニケーション・トレーニング—」加納 水町, 元木 (京都大学)
- ◆セッション3 「キャリアプランを描くには?」
「高等教育機関におけるキャリア教育の導入と課題」 中里弘穂 (福井県立大学)
「企業が考えるキャリア教育」小川明彦 (株式会社大津屋)



今年度の活動 3

3. 福井県内の企業家、経済界との交流と連携（の芽）

- ★合宿研修会の準備の過程で、「ふくいキャリア教育フォーラム2011」の実行委員会を知り、交流するきっかけとなった。
- ★実行委員会は、福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会、福井市PTA連合会会で構成
- ★実際のフォーラムにもフレックスから、数名の参加があった。(250名中)
- ★次年度のフォーラムの共同での開催も
- ★「ドリームワークスタイル・プロジェクト」への協力依頼



今年度の活動 4

4. 学生理解アンケートWEB版の作成

- ❖システムの構築をはかり、ネット上で利用可能なものとした
- ❖11月頃に実施したい。昨年度実施の結果との比較
- 「キャリア支援・教育」研究会の継続
- ❖6月に福井工大のキャリアセンター開設の際に1回目を実施
- ❖合宿研修会が2回目
- ❖11月～12月に3回目を実施
- ④. 合同公開授業

まとめ

1. 今後の基礎となる、FD活動の中心的なメンバーの人的な連携をこの3年間の補助事業で築き上げてきた。
2. 着実な活動を進める上で、FDチームを中心とした体制が機能してきている。FD活動の環が少しずつ広がってきている。
3. 「仲良しクラブ」に終わらない、多様性の追求が大切であろう。
4. 福井県内の企業・経済界との連携の可能性がでてきた。
5. 財政面と事務局体制の弱さをどうするか、安定した活動となる裏付けを作る努力が更に必要である。

第4回 FD ネットワーク代表者会議（於：京都大学高等教育研究開発推進センター）

2011 年 9 月 13 日

名古屋大学 FD・SD 教育改善支援拠点の 2011 年度活動方針

夏目 達也

（名古屋大学高等教育研究センター）

1. FD・SD の教材開発

＜基本方針＞

- ・これまでの開発のノウハウと実績をふまえて、新たな展開をめざす。
- ・学内・学外のニーズへの的確な対応。ニーズの掘り起こし。

1.1 新任教員ハンドブック開発プロジェクト

1.2 留学生研究会プロジェクト

1.3 SDプロジェクト

- ・人事異動研究
- ・課長職研究
- ・教務プロジェクト

1.4 学士課程学生向けアカデミック・スキル形成支援

1.5 その他

2. FD・SD プログラム開発の企画・実施

＜基本方針＞

- ・教職員のプロフィール・ニーズに応じて、柔軟な形態の FD・SD を企画・実施。
- ・集合研修にこだわらず、多様な方法と内容で実施。

2.1 「大学教育改革フォーラム in 東海 2012」の開催（2012 年 3 月 3 日、名古屋大学）

- ・東海・中部地域にある大学の教職員向けに、各大学における教育改革の実践や今後の進め方について意見交換を行う。
- ・実行委員会を中心に企画案を検討。

2.2 高等教育研究センター主催「招聘セミナー」

- ・FD と SD の両面から。月に 1 ～ 2 回。
- ・全国各地の大学等で高等教育研究や実践に携わっている方を招聘。

2.3 高等教育研究センター主催「客員教授セミナー」

- ・年 5 回：外国人を含む。

2.4 高等教育研究センター主催・FD・SD 関係ワークショップ・セミナー

2.4.1 教員向け

「多人数授業の教え方」

「英語で教える」

「研究グループを率いるために」

2.4.2 教職員向け

「留学生との信頼関係をどう築くか」

2.4.3 学士課程学生向け

「レポートの書き方講座」

2.4.4 院生向け

「TAのためのライティング支援セミナー」

2.5 新任教員研修プログラムの見直し

- ・従来のプログラムの改訂とそのための調査・研究

2.6 大学院生の学修とキャリア形成の支援

- ・大学院の正規科目「大学教員準備講座」の開講（集中講義）

- ・学内研究科との共同による新規プログラムの開発

例： 多元数理科学研究科との共同研究

- ・研究支援プログラム

「研究発表資料をつくるポスター・スライドづくりの理論と実践」

（院生・教職員のためのスキルアップセミナー）

2.7 教務・学生指導系職員の各種研修への協力

- ・東海・北陸地区学生指導研修会への講師派遣（5月）

2.8 大学セミナーハウスの大学職員セミナーへの協力

- ・全国の大学職員向けに、企画委員会が企画・実施を担当。

- ・年2回（7月と11月）。

- ・拠点からセンター教員を派遣、企画委員の一人として企画・実施を担当。

2.9 その他

- ・大学管理行政学会中部・北陸地区研究会の活動との連携。

- ・国際的なFD・SD 関係団体における教員・職員の研修事業の実施。

- ・2011年度はオーストラリア HERDSA、ISSOTL、PODに派遣。

3. 他大学からの利用申請への支援

<基本方針>

- ・基本的に、中部地域の大学により利用要請に応える。

- ・他大学の教職員の研修受入。
- ・センタースタッフと一緒に、FD・SDの企画・実施を行うことで、ノウハウを習得。
- ・勤務校での実践に役立てる。

3.1 他大学等のFD・SD活動への支援

3.2 各大学のGP外部評価への協力

3.3 旧東海高等教育研究所の事業の引継

3.4 その他

4. 他大学のFD・SD関係機関・組織との連携

<基本方針>

- ・連携による相互の機能拡充を図る。
- ・過去の実績を大切にする。

4.1 「FD・SDコンソーシアム名古屋」の活動の継続・発展

4.2 その他のコンソーシアム組織との連携

4.3 大学教育センター等協議会への参加

5. 地域における各種FD・SD情報の提供

- ・各種情報の提供
 - ・センター・ホームページ、メールマガジン、ニュースレター等
- ・ニュースレターの発行 4回
- ・情報配信サービス
- ・ウェブ更新 適宜

6. その他

6.1 トップマネジメントの研究・調査。

- ・アカデミック・リーダーシップ研究会
 - ・全国の高等教育研究者との共同研究
 - ・大学経営陣向けリーダーシップ形成のための研修プログラム・支援ツールの開発
- ・管理職研究
 - ・全国の主要大学（東北、京大、広大等）との共同研究

6.2 他のFD・SD拠点と連携して相互の機能拡充。

- ・4大学拠点（東北、京都、愛媛、名古屋）会議の開催
- ・大学拠点運営委員会への委員派遣（東北、京都）
- ・大学教員準備講座の各拠点への普及に関する検討会（東北）

全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF) 概要について

立命館大学教育顔衣鉢推進機構 安岡高志

- ・2008 年度 文部科学省 採択事業「質の高い大学教育推進プログラム」 「教育の質を保証する教員職能開発と大学連携 ～大学間連携を通じた実践的 FD プログラムの開発ならびに大学教員に求められる教育力量と職能の提案～」を基盤に設立。
- ・JPFF にて開発した FD プログラムを立命館大学の新任教員対象プログラムとして、ひとつのモデルを示した (2009 年度より実施)。

②JPFF 基本情報・データ

- ・現在の会員数：24 大学 (※2011.9.6 現在)
フォーラム発足当時 (2008 年 12 月) は 10 大学。年々増加中。
(参加大学一覧) <http://www.f-d-forum.org/f-d-forum/html/school-list.html>
※龍谷大学は現在 HP 更新作業中です。

●立命館大学 新任教員研修のプログラム 関連 (JPFF 会員校にはオンデマンド講義、ワークショップを解放)

①「実践的 FD プログラム」概要

- ・教員が自らの授業を専門分野と教育学の観点から省察することが出来る知識、技能、態度などを獲得してアクティブ・ラーニングをはじめとする実践する能力を修得する研修プログラム。
- ・プログラムは、教育学をはじめとした系統的な理論を伝えるオンデマンド講義、授業技術やコミュニケーションスキルを育成するワークショップ、個々の教員のニーズに応える日常的な教育コンサルテーションから構成されている。本学教員が本プログラムを受講することを通して、大学教員に求められる教育力量と職能を獲得することにより、大学教育の質を保証することをめざしている。

②基本情報・データ

- ・必須受講対象者
立命館大学に新規任用された教授、准教授、講師、助教の専任教員 (任期制を含む) のうち、専任教員歴※が 3 年未満の者 (なお、客員教授、特命教授、特別招聘教員、特別契約教員、嘱託講師は対象外)
※専任教員歴・・・大学、短期大学、高等専門学校における専任教員としての就業期間とし、初等・中等学校、予備校での経験は専任教員歴としてカウントしない。
※上記 必須受講対象者以外にも、新任の先生方には“任意受講者”として案内を行っている。

- ・修了要件：以下 3 つの要件を満たしていること

- ①オンデマンド講義 9/15 本以上の受講と課題レポートの提出
- ②ワークショップ 6/10 回以上への参加
- ③研修終了時にティーチング・ポートフォリオの作成

・新任教員 受講者数

2009 年度着任 必須受講対象者 39 名うち、2010 年度修了者 11 名／修了率：28.2%（うち、3 名が 100%修了者）

2010 年度着任 必須受講対象者 49 名

2011 年度着任 必須受講対象者 26 名

※2011 年度からは、新任以外の教職員に対しても、会議、HP を通じて広報している。

機構関連教職員を除く申込者：19 名（教員 4 名、職員 15 名）（※2011.9.6 時点）

（機構関連教職員を含めると、+28 名で 47 名）

・「実践的 FD プログラム」ID 発行数（※2011.9.6 現在）

学外個人 ID：690（JPFF 会員校、非会員校合計）

学内個人 ID：222（教育開発推進機構、教育開発支援課 教職員を含む）

大学事務局用 ID：24（※JPFF 加盟校には、事務局用 ID を発行・配布しています）

・他大学発行 ID 内訳（ご参考）

総 ID 発行数：713 （上記 学外個人用 ID690+立命を除く事務局用 ID23=713）

会員校：13 大学 420 アカウント

非会員校：24 大学 269 アカウント

（工学院大学、愛知産業大学、園田学園女子大学、沖縄国際大学、玉川大学、阪南大学、滋賀県立大学、女子美術大学、小樽商科大学、西南学院大学、相模女子大学、大阪工業大学、大手前大学、大同大学、長崎国際大学、帝塚山大学、東邦大学、東北大学、徳島大学、奈良文化女子短期大学、日本大学、福岡女子短期大学、文教大学、北九州市立大学／以上 24 大学）

・昨年度の評価より

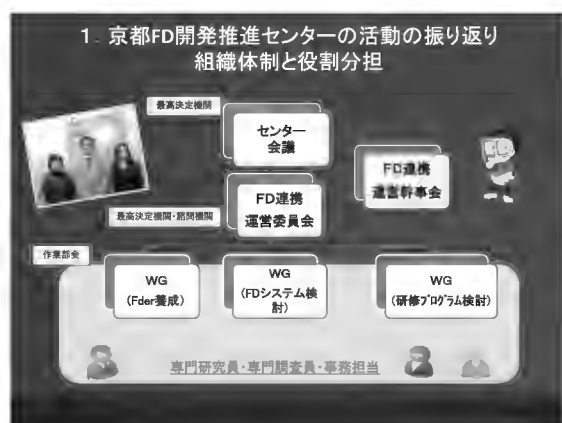
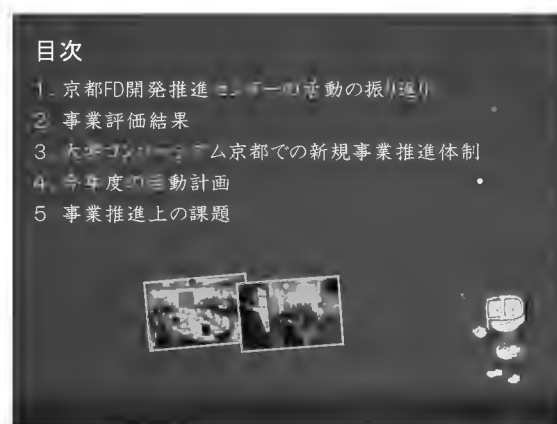
※ 立命館大学の新任教員研修は、研修目標の達成度やプログラムの役立ち度に関する評価結果から、新任教員の職能開発に十分に有効であったと推察される。しかし、身につけた知識・技能が授業にどれだけ反映されているかについては、追跡調査など検証の仕組みが必要。

※ 達成度より役立ち度の評価の方が高い結果となったということから、プログラムの内容は良いが、プログラムに参加し易くするための日程等の工夫が十分でなかったと推察される。プログラム未修了者の意見も考慮し、さらなるプログラムの活用に向けた仕掛けづくりが必要。

→2011 年度より、ワークショップの年間スケジュールを年度初めに周知している。

※ 学内でのプログラムの定着のためにも、学内コンセンサスを如何に得るかが重要。

→新任教員以外への広報も行い、学内での認知度を上げる。



1. 京都FD開発推進センターの活動の振り返り 3つのワーキンググループ		
「京都Fder塾」	「京都FD執行部塾」	FD研修プログラムWG
⇒「京都Fder塾」の開設 ⇒「京都FD執行部塾」の開催 ⇒FDQAの対応	⇒REASを用いた連携校教員意識調査およびその分析 ⇒クリックカー利用授業実践事例の蓄積、 ⇒FDをテーマにしたSNSのパイロット運用	⇒年2回の体系的な新任教員合同研修プログラムの開発・実施 ⇒FDハンドブックの作成
メンバー構成		
<ul style="list-style-type: none"> 各連携大学から、いずれかのWGに教員1名以上が参加 コンソーシアムから、京都地域でFD推進に関わってきた連携校以外の教員2名が参加 		

1. 京都FD開発推進センターの活動の振り返り センター共通事業	
<p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> FDセミナー企画・運営 海外研修企画・運営 国内調査及び派遣支援 広報活動 庶務、雑務 <p>⇒計4回のFDセミナーを企画・運営</p> <p>⇒7カ国 延65名の教職員が参加</p> <p>⇒FDに関する知識を深め、京都地域内でのFD活動への貢献を目指す。国内FD関連イベントに参加する連携校教職員に対して旅費・参加費等の支援を実施。延、7名の教職員が利用</p> <p>⇒Newsletterの発行、HPの開設・運営、各種報告会の開催、各種報告書</p>	

1. 京都FD開発推進センターの活動の振り返り 主な実績①	
階層別のFD研修プログラムの開発と実施	
①新任教員合同研修:「基準枠組」をダウンロードした講義+ワークショップ形式の研修	
②京都Fder塾:学内FD担当者およびFDに興味をもつ教職員のための相互研修	
③京都FD執行部塾:学長、副学長、学部長を対象とした講義形式の研修	

1. 京都FD開発推進センターの活動の振り返り 主な実績②

まんがFDハンドブックの作成・発行



配付数: 約 7,000部
初版: 4,000部
3刷

配付数: 約 8,000部
初版: 5,000部
3刷

主な配布先

連携校(18大学・短期大学)
コンソーシアム加盟校(50大学・短期大学)
全国の高等教育研究機関
電子ブック化
(京都FD開発推進センターのHP・
プレスリリース(京大記者クラブ))

主な活用法

新任教員研修会
「FD推進委員会ニュース」への転載

1. 京都FD開発推進センターの活動の振り返り 主な実績③

HP・メールできめ細かな情報発信とフォローアップ



HPの開設・運営

ブログ発信

NewsLetterの発行(年4回)



各種報告書



海外研修事前学習会、報告会

2. 事業評価結果

連携校による内部評価および外部委員3名による外部評価を実施し、事業評価委員会において総括を行った。

【高い評価】

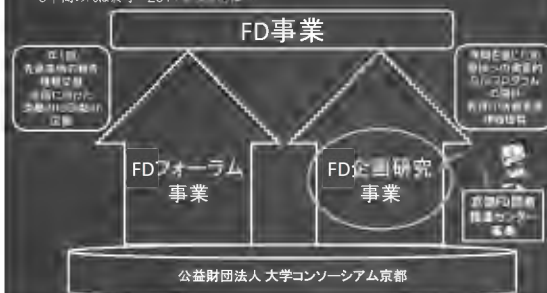
-規模も設置形態も異なる18大学・短大による連携にもかかわらず、体系的なFD研修プログラムの実施など、着実な成果が上がっている
-中小規模大学では実現が難しいFD専門部署について共通リソースという考えの下、センター設置とスタッフの配置と言う形で実質的な取組の推進が実現し
-FDハンドブックやニュースレターの発行を通じ、取組への直接的参加のない教職員も積極的なアプローチを行っている

【低い評価】

-プロジェクトの成果が実際に個々の大学内のFD活動にどの程度フィードバックされたかが明確ではない
-各取組間(WG間)の連携にまだ改善の余地があるのではないか
-センター運営の事務業務過多により専門員が本来のデベロッパーとしての業務に専心することが難しかったのではないか

3. 大学コンソーシアム京都における 新規事業推進体制

3年間のPILは終了 2011年度より開始



3. 大学コンソーシアム京都における 新規事業推進体制

■ 委員会制の導入

京都FD開発推進センターに新たな組織として
FD企画研究委員会を新設。

FD企画研究委員会の他事業と同様に、委員会制により、実施予定の委員会に具体的な企画案の検討を行う。

■ 委員のメンバー構成

サブプロジェクトにおける成果を確実に継承させるために、各WGリーダーをはじめWGメンバーに引き継ぎ委員就任を依頼。

(移行計画 継続)

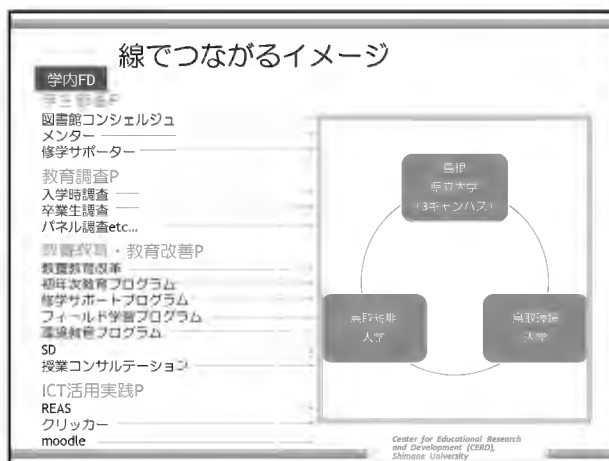
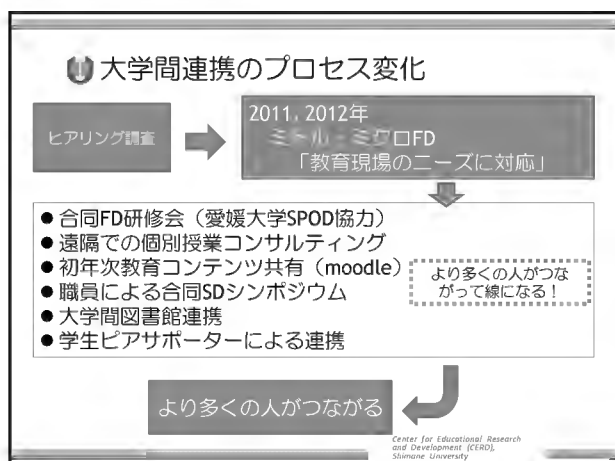
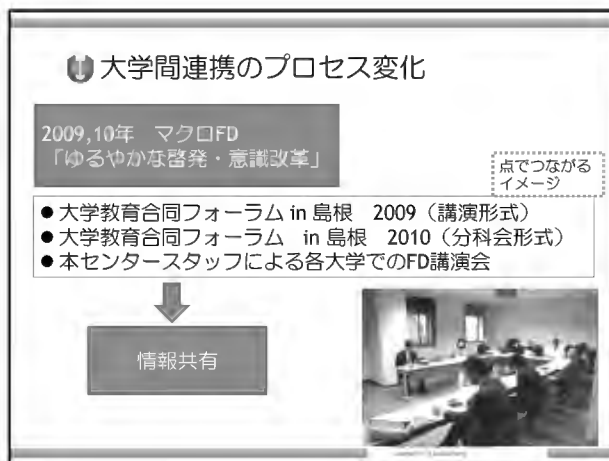
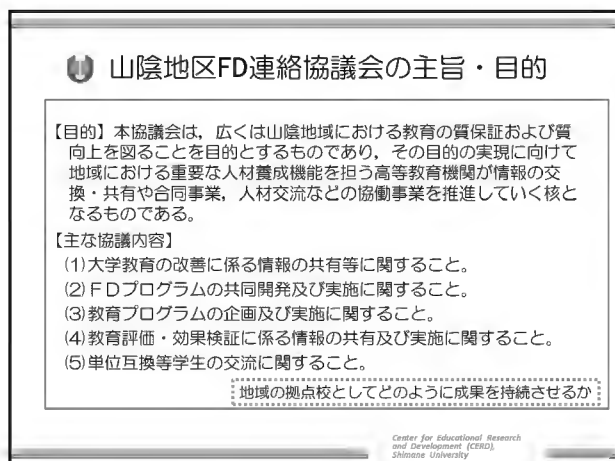
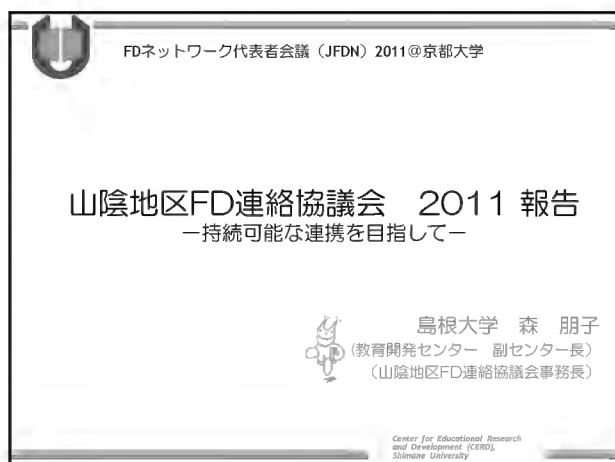
今後は他の加盟校にもこの体制を導入も検討。

4. 今年度の活動計画

月	日	事業名(仮)
2011年 6月	18日(土)	京都FD執行部塾
9月	17日(土) 18日(日)	新任教員合同研修A
11月		京都FDe塾①【小規模】
12月		京都FDe塾②【小規模】
2012年 1月		京都FDe塾③【大規模】 (FDセミナー)
2012年 3月		(※第17回FDフォーラム) 新任教員合同研修B

5. 事業推進上の課題

- A) 作成した研修プログラム内容のブラッシュアップと講師人材の発掘（育成）
- B) I C T 機器利用授業実践の継続・事例の蓄積
- C) 加盟50大学との密接な F D ネットワークの構築による活動への参加教職員の拡大
- D) 加盟校に有益な F D 情報の収集・提供・対外的発信
- E) 上記を促進するための効果的な広報手段の確立



① 大学間連携のプロセス変化

2013年 再びマクロFD「実践の共有」
+ミドル・ミクロFDの継続

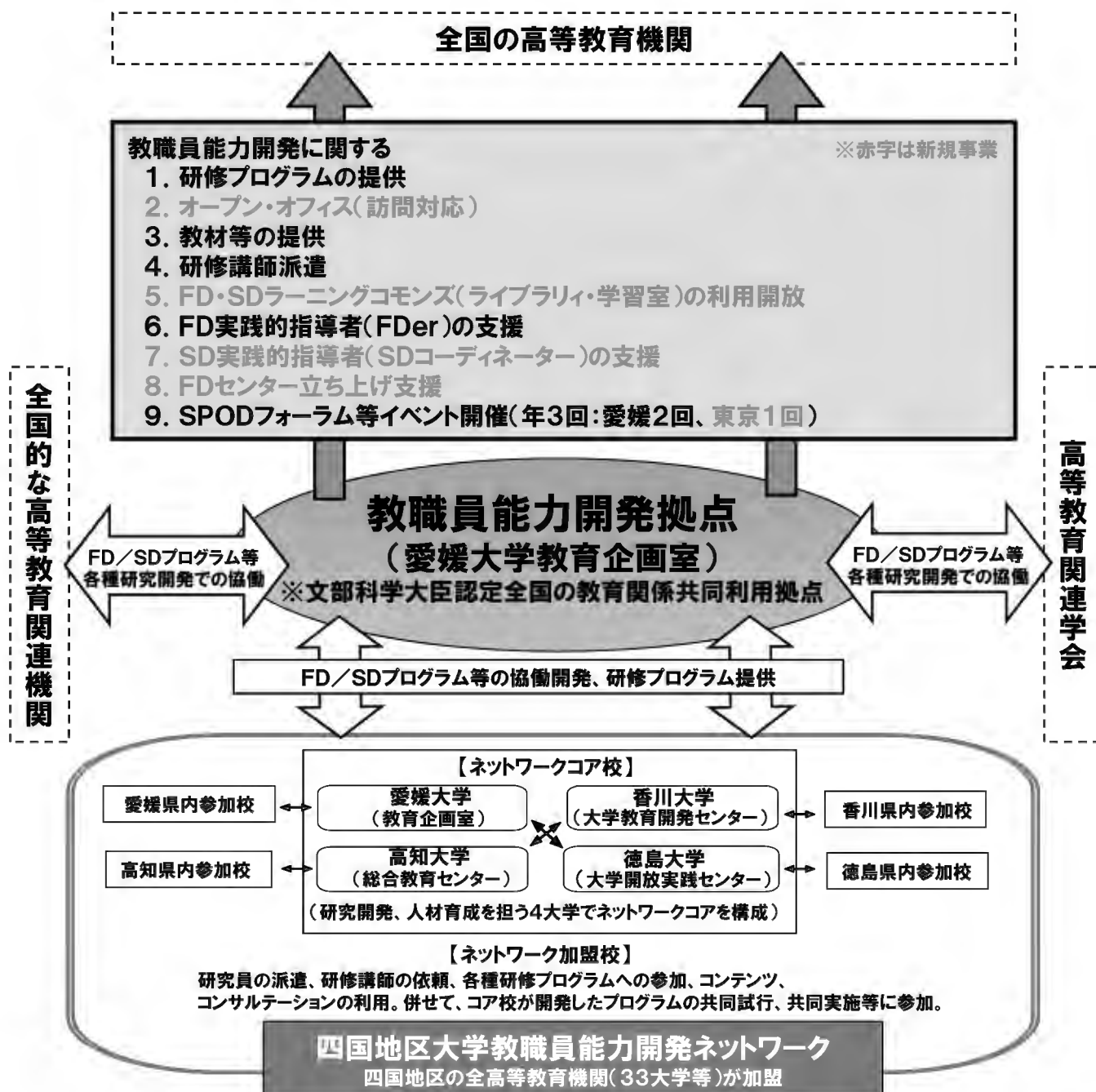
● 大学教育合同フォーラム in 島根 2013 (分科会形式予定)
より面をつなげるイメージ

持続的継続へ向けて
● 連携に関わる人を出来るだけ多くする (協働性)
→ミドル、ミクロレベルのFDの展開→マクロレベルFDへ
● 学内FDを強化し、そのコンテンツを発信・共有 (同僚性)

ご静聴ありがとうございました
Center for Educational Research
and Development (CERD),
Shimane University

教職員能力開発拠点(愛媛大学教育企画室)と 四国地区大学教職員能力開発ネットワークとの 連携によるプログラム開発・実施体制の確立・強化 ～大学における教職員の能力開発による教育の質の向上～

愛媛大学教育企画室は、自らが開発したFD/SDプログラム及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等と連携で開発したFD/SDプログラムを有効活用するため、スタッフやプログラム等の充実により実施体制を確立・強化し、全国の教育関係共同利用拠点として、大学等の教育力向上を図ります。



教育改革を推進するための組織・制度

■ 教育・学生支援機構 教育企画室

○ 目的

機構長の指示の下、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究を行うと共に、その成果を実際の教育活動に適用し、教育改革を推進すること。

- ### ○ 部門
1. 教育・学習支援部門
 2. 教育調査・分析部門(IR部門)
 3. 学生能力開発部門

○ 業務の柱

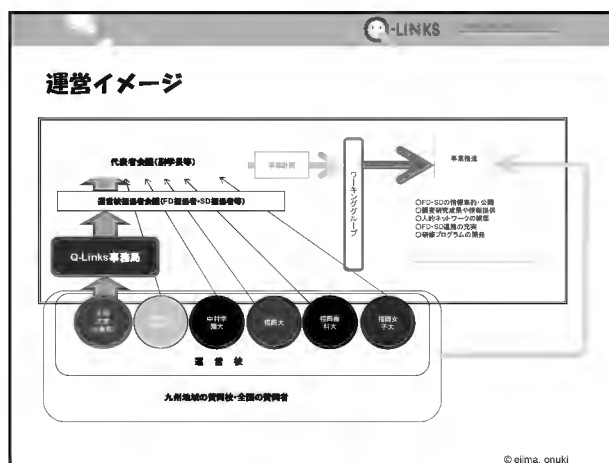
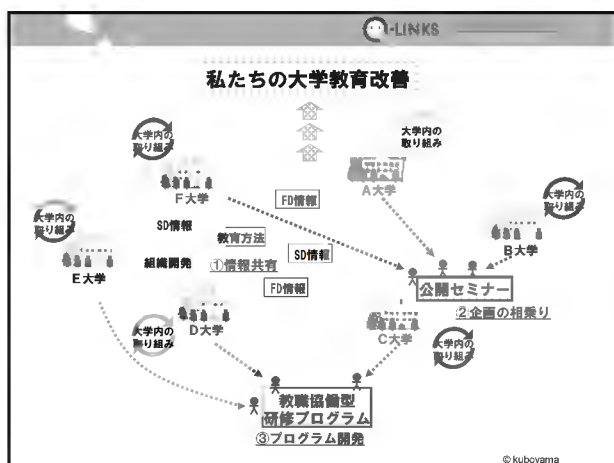
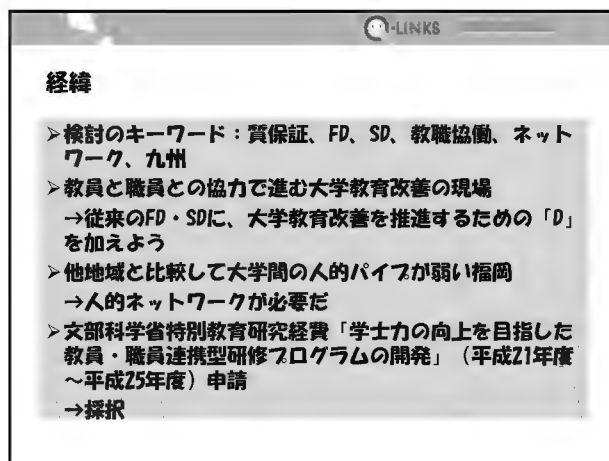
- ① 全学的な教育課題に関わる調査・研究
- ② ファカルティ・ディベロップメント
- ③ 授業評価及びシラバス
- ④ 学生の学習支援および能力開発

○ スタッフ

室長(兼任教授)、副室長(准教授2名)

室員: 准教授、助教、特定研究員(各1名)

・・・本年度中に2名増員予定・・・



Q-LINKS

目的

九州地域大学教育改善FD・SDネットワーク：
Kyushu Learning Improvement Network for
Staff Members in Higher Education (Q-Links)
 は、FD・SDの大学間連携による人的ネットワークの
 構築や情報共有を通じて、各高等教育機関における
 学習・教育の改善が推進されることを支援し、教育
 活動の向上と発展に寄与します。

Q-LINKS

主な取組

- ネットワークに参加している各機関のFD・SD情報を集約・公開する
- 入学前から学士課程・大学院課程までの学習・教育に関し、他国、他大学の状況、関係官庁、関係業界の動向などについて情報収集し、ネットワークに参加している各機関へ提供する
- 各機関同士のネットワークを活用して、人的ネットワークの構築もすすめ、特にFD・SDの連携を充実させ、強化をはかる
- 学習・教育改善に資する教職協働型（教育活動の質的向上という目標のもとで教員と職員が協力する）研修プログラムを開発・実施する

Q-LINKS

賛同校数(2011.07現在)：27大学、5短大、46賛同者

➤2009.10発足(6大学、1短大)
 九州大、西南学院大、中村学園大・短期大学部、福岡大、福岡歯科大、福岡女子大

➤2009.12加入(10大学、1短大)
 福岡工業大、西日本工業大、第一薬科大、保健医療経営大、福岡国際大、筑紫女学園大・短期大学部、九州共立大、国際医療福祉大、九州国際大、日本文理大[大分]

➤2010.01加入(5大学、1短大)
 九州産業大、福岡医療短期大、福岡教育大、長崎国際大[長崎]、宮崎公立大[宮崎]、琉球大[沖縄]

➤2010.05加入(2大学)
 沖縄国際大[沖縄]、崇城大[熊本]

➤2010.10加入(1大学)
 鹿児島大[鹿児島]

➤2010.12加入(2大学)
 名桜大[沖縄]、佐賀大学[佐賀]

Q-LINKS

賛同校数(2011.07現在)：27大学、5短大、46賛同者

➤2011.03加入(1大学、1短大)
 九州女子大、九州女子短期大

➤2011.07加入(1短大)
 香蘭女子短期大

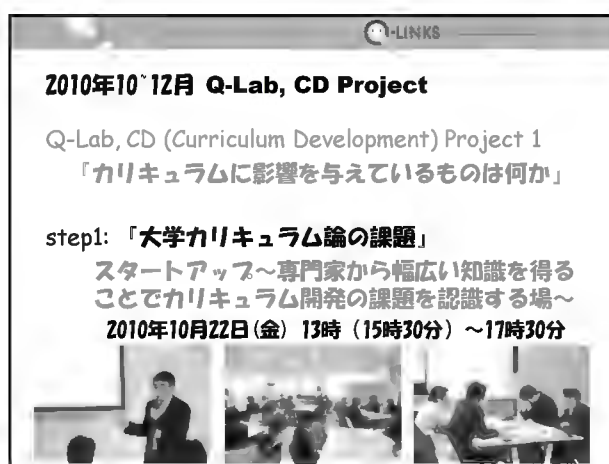
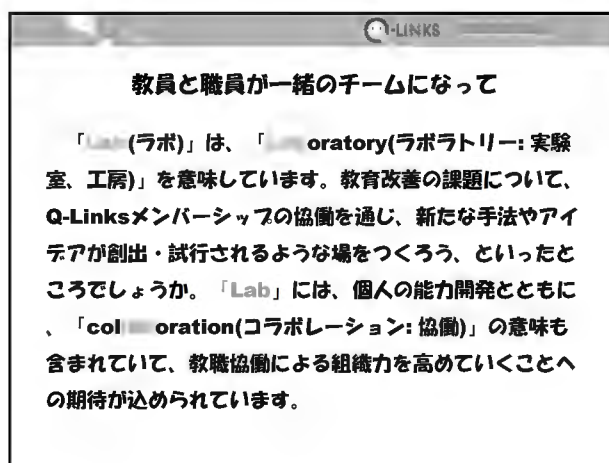
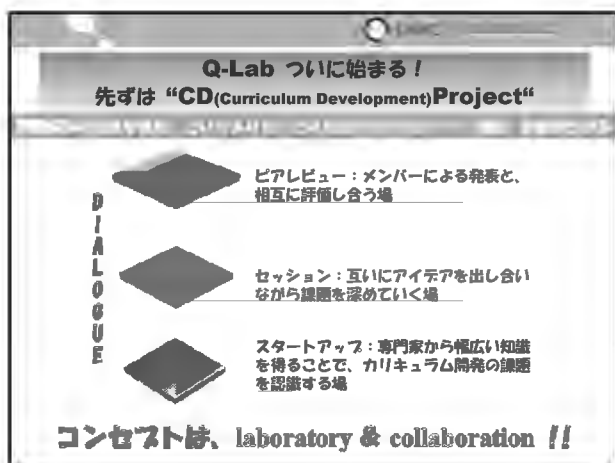
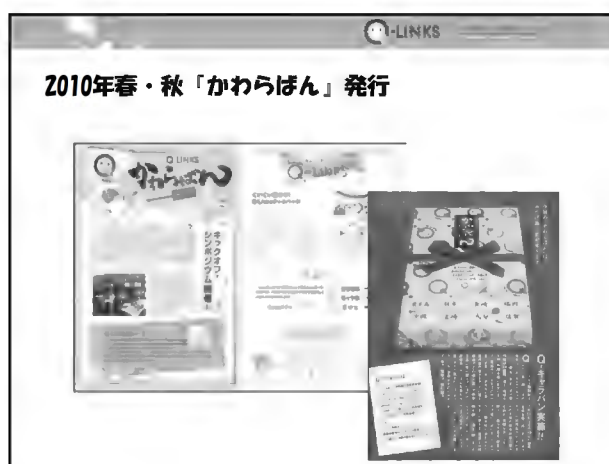
Q-LINKS

2. 昨年(2010)度後期の活動実績

Q-LINKS

2010年夏 Q-caravan (賛同校すべてを訪問)






LINKS

2010年10~12月 Q-Lab, CD Project

Q-Lab, CD (Curriculum Development) Project 1
「カリキュラムに影響を与えているものは何か」

step2: 「カリキュラムづくりのコツを探る」
セッション～互いにアイデアを出し合いながら
課題を深めていく場～
2010年11月13日(土) 12時30分～17時30分




LINKS

2010年10~12月 Q-Lab, CD Project

Q-Lab, CD (Curriculum Development) Project 1
「カリキュラムに影響を与えているものは何か」


step3: 「カリキュラムづくりのコツを共有しよう」
ピアレビュー～メンバーによる発表と相互に評価し合う場～
2010年12月03日(金) 12時30分～17時30分



2010年10~12月 Q-Lab, CD Project

参加者数
17大学25名

Q-pantry
Q-Lab参加者・講師・事務局が、活用できる
コミュニケーション用ポータルサイト開設



2010年10~12月 Q-Lab, CD Project

参加者より

このプロジェクトを終えて、大学職員として、教務
職員として一度向けることができた実感していま
す。カリキュラム在り方についてここまで真剣に
考える時間は、日々の業務に追われているとなかな
かありません。「カリキュラム＝教育課程」の考え
方が身についただけでも大きな収穫です。(私立大
・職員・男性)

LINKS

2010年10~12月 Q-Lab, CD Project

参加者より

第1回CDプロジェクトへの参加は、私に大きな刺激
を与えてくれた。第1の刺激は「カリキュラム」を
どのように理解すればいいのか、という「知的刺激」
である。第2の刺激は「人的刺激」である。チー
ムの方々は個性豊かつ異多様で、私には思い浮
かばないような発想が次々に提示され、実に有意義
な時間を共有できた。この知的・人的刺激をこれか
らの教員生活にどのように活かせるのか、個人的に
楽しみに思っている。(私立大・教員・男性)

LINKS

Q-place (学び合う集いを開催)

- Vol. 1. 2010年01月13日(水)九州大
調査報告会：教育改善に関する海外調査プロジェクト(2009)報告
- Vol. 2. 2010年03月10日(水)九州大
調査報告会：学生とFD
- Vol. 3. 2010年07月07日(水)九州大
大学クイズを見て触って語ろう！
- Vol. 4. 2010年09月02日(木)九州大
組織をつくる、組織でうごく
- Vol. 5. 2011年01月28日(金)沖縄国際大
大学職員として学生と向き合う時－あなたならどうする？－

Q-LINKS

Q-place (学び合う集いを開催)

➤Vol. 6, 2011年03月07日(月)九州大
さあ、「ビールゲーム」に挑戦!

➤Vol. 7, 2011年06月22日(水)鹿児島大
大学職員として学生と向き合う時—あなたならどうする?—

➤Vol. 8, 2011年07月04日(月)九州大
大学教育におけるピア・サポートの有効性について考えよう!

➤Vol. 9, 2011年09月05日(月)九州大
ビールゲーム・リベンジ

Q-LINKS

2011年02月19日 Q-conference2010開催


日時: 2011年02月19日(土) 12:30-17:30
場所: 西南学院大学東キャンパス 国際コミュニティセンター
プログラム:

▼12:30-12:45 オープニングセッション
開会挨拶
G. W. バークレー (西南学院大学長)

▼12:45-15:00 ポスターセッション

▼13:30-14:30 Q-Lab 第1回CDプロジェクト報告会
進行: 小貫有紀子 (九州大学教育改革企画支援室特任助教)
コメンテーター: 田中岳 (九州大学教育改革企画支援室准教授)

▼15:00-15:30 シェスタ (休憩)



Q-LINKS


2011年02月19日 Q-conference2010開催

日時: 2011年02月19日(土) 12:30-17:30
場所: 西南学院大学東キャンパス 国際コミュニティセンター
プログラム:

▼15:30-17:00 企画セッション
「人が学ぶ、組織が育つ〜明日の教職協働を考える〜」
モデレーター
芦沢真五 (明治大学国際連携機構特任教授)
進行: 久保山宏 (九州大学教育改革企画支援室特任助教)

▼17:00-17:30 クロージングセッション
開会挨拶
丸野俊一 (九州大学理事・副学長)

▼18:00-19:30 情報交換会




Q-LINKS

2011年02月19日 Q-conference2010開催

参加者数
 183名（+講師・運営スタッフ36名）
 九州・沖縄地域168名（それ以外から15名）
 ※内、賛同校157名（それ以外から11名）

ポスターセッション参加 13大学・1賛同者 31パネル

情報交換会参加 約70名


Q-LINKS

3. 今年(2011)度に推進中の活動

Q-place
 Q-Lab, CD project 2
 CD project 3
 OD project 1
 Q-conference2011

Q-caravan

Q-Links STUDIES2010
 かわらばん vol.3~4



Q-LINKS

2011年春「かわらばん」発行
2011年07月01日「Q-Links STUDIES 2010」発行



Q-LINKS

2011年07~09月 Q-Lab, OD Project

Q-Lab, OD (Organizational Development) Project 1

「コンフリクトー対立と向き合うー」

▼ **step1, 2011年07月22日**
 コンフリクトを知り尽くす！？：事例を手がかりにゲストとの対話を通して課題を認識する場

▼ **step2, 2011年07月23日**
 コンフリクトを語り尽くす！？：互いの経験を語り合い課題を深めていく場

※この間、Q-pantry(web掲示板)の活用

▼ **step3, 2011年09月09日**
 コンフリクトを味わい尽くす！？：表現した「問いかけ」に共に向き合い、相互に評価し合う場

Q-LINKS

2011年08月 Q-Lab, CD Project

Q-Lab, CD (Curriculum Development) Project 2

「カリキュラムに影響を与えているものは何か」

▼ **第1日: step1~2, 2011年08月25日**
 知る(step1)
 探る(step2)

▼ **第2日: step2~3, 2011年08月26日**
 創る(step3)

※1泊2日の合宿型(佐賀県唐津市)で開催

Q-LINKS

2011年10~12月 Q-Lab, CD Project

Q-Lab, CD (Curriculum Development) Project 3

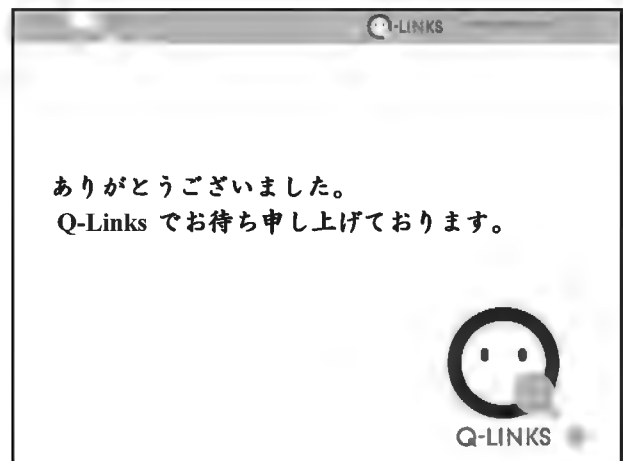
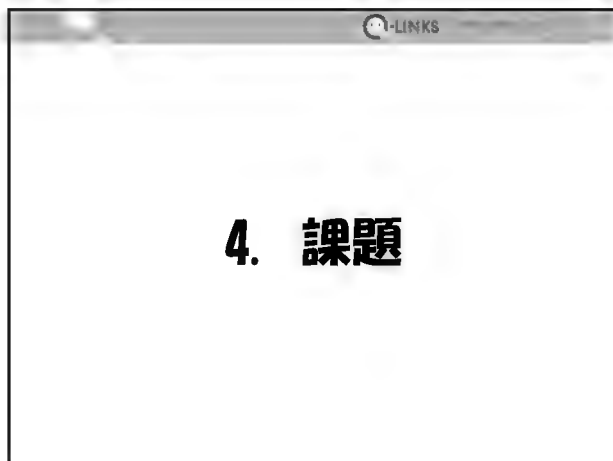
「うまくまわっているカリキュラムはココが違う！」

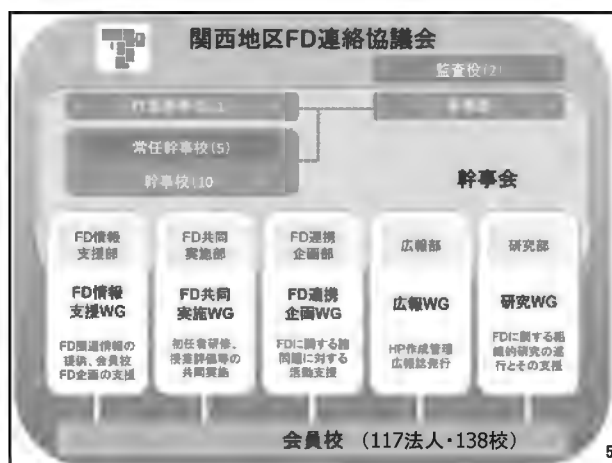
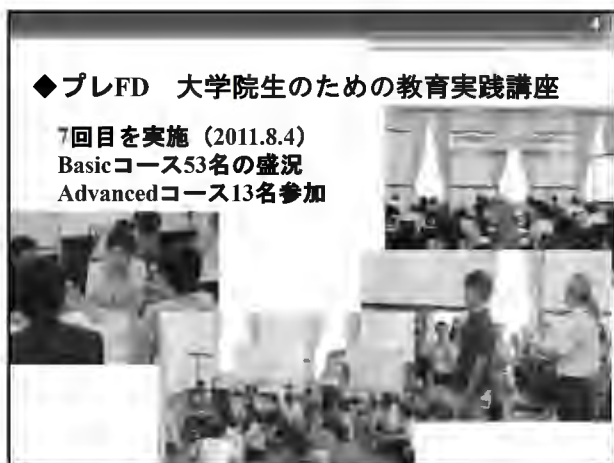
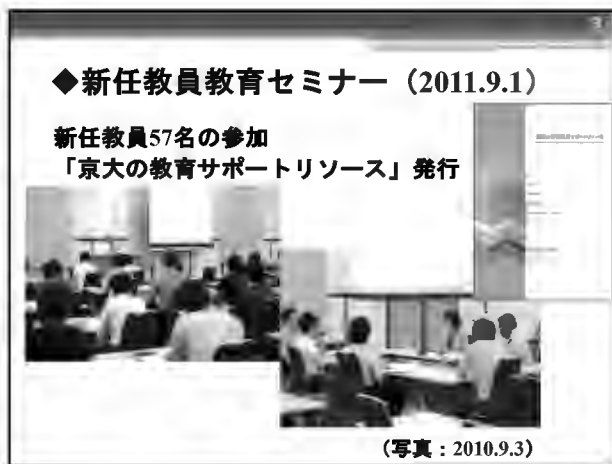
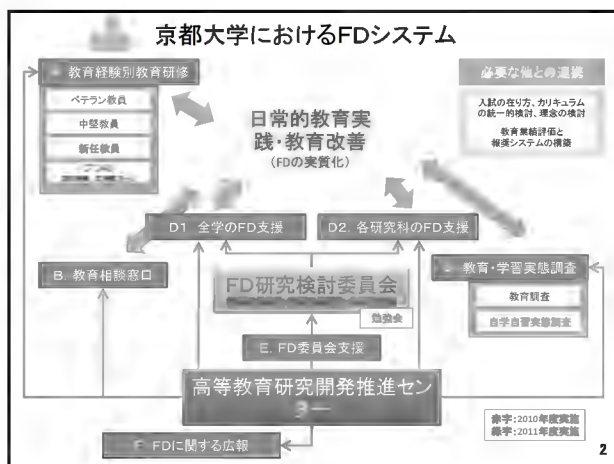
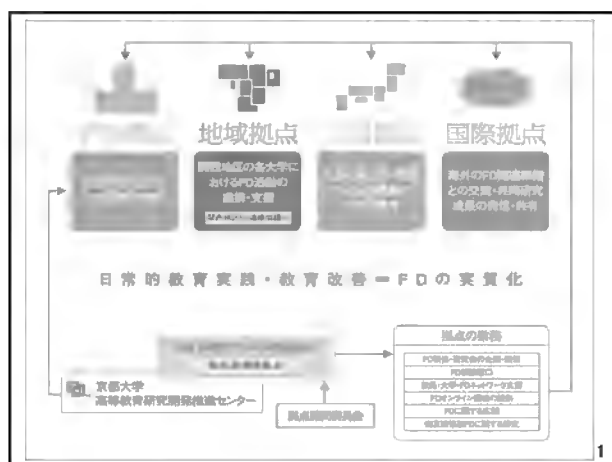
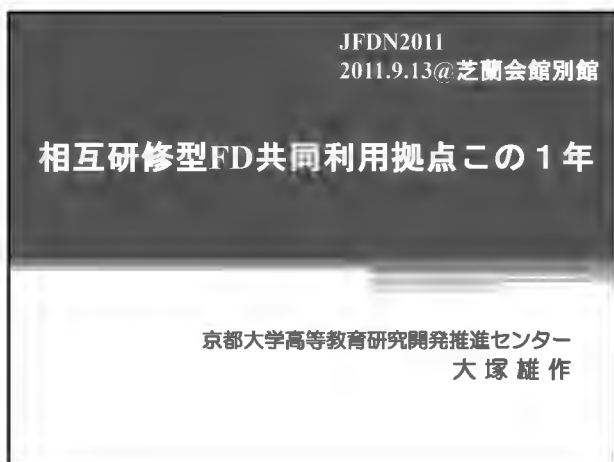
▼ **step1, 2011年10月21日**
 知る(スタートアップ)

▼ **step2, 2011年11月12日**
 探る(セッション)

※この間、Q-pantry(web掲示板)の活用

▼ **step3, 2011年12月09日**
 創る(ピアレビュー)

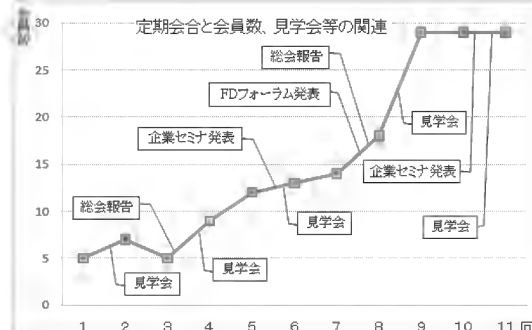




◆FD共同実施WGによる 初任者教員向けプログラム



◆研究WG FDメディア研究SGの発展



◆大学教育研究フォーラム

2012年3月15日(木)・16日(金) 第18回開催予定



◆大学生研究フォーラム

- ・2011年8月1日(月) 427名参加
京都大学 高等教育研究開発推進センター
東京大学 大学総合教育研究センター
公益財団法人 電通育英会 共催
- ・2011年8月2日(火) 『高校教諭のためのシンポジウム』
224名参加 (学研教育みらい協賛)



◆MOST

登録者:363名、コミュニティ:74件、スナップショット:1,021件

①トップページ改訂

- ・実践プログラムの提供
- ・作成事例の体系化

②MOST講習会

- ・2009年度:15名(1回)
- ・2010年度:23名(4回)
- ・2011年度:5名(1回)



◆国際連携の成果の出版・発表

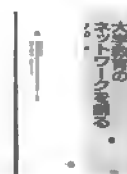
- ・2008年1月の国際シンポ(「日本のFDの未来-Building the Core in Faculty Development-」)以来の国際連携
...カーネギー財団、MIT、インディアナ大学

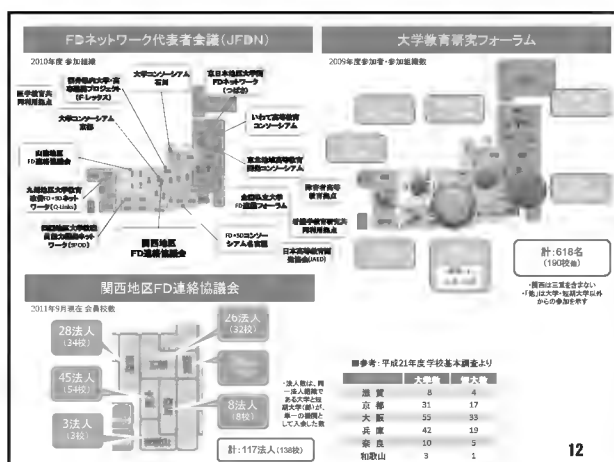
①出版

- ・センター編『大学教育のネットワークを創る -FDの未来へ-』(東信堂, 2011年3月)
* 英訳版も

②発表

- ・ISSOTL 2010でのMOSTについての発表





◆これからの課題

- **拠点の仕事の精選とシステム化**
 - ・ 管内、地域、全国、国際の業務をどう選別するか？
 - ・ 不可欠の業務は何か？ 業務の恒常化・日常化は？
- **拠点の人的・財政的基盤の確保**
 - ・ 特定予算、拠点予算、会費の配分は？
 - ・ 拠点としてのあるべき体制は？
- **拠点の連携の今後**
 - ・ ネットワークのネットワーク化は？

—2011年度の活動報告と今後の展開について—

2008 年度に「FD 推進のための情報交換、実践研究、および情報発信を行うことを目的として、FD に関わる若手研究者を組織化し、問題点や成功事例を共有する」ことを目指して設立された若手 FD 研究者ネットワーク（Japan Faculty Development Network for Junior Researchers：JFDN Jr.）は 4 年目を迎えた。JFDN Jr.は、横の連携を通じたボトムアップによって新たな理念やモデルを構築することを企図する同僚的性格と、単なる実務家の集団ではなく自らを研究者と規定するメンバーによって構成されている点を特徴としている。2011 年度は合宿研究会、メーリングリストによる情報交換、メールマガジンの刊行を主な活動として行ってきた。現在、メーリングリストの登録者は 92 名となっており、北は北海道、南は沖縄まで、また、学部生から大学教員、事務職員と幅広い層が参加していることも JFDN Jr.の特徴であるといえるだろう。

2011年9月5日、6日と京都外国語大学にて「FD・SDをよりよいものに」というテーマで合宿研究会が行われた。参加者は9大学18名であった。以下に、2日間のプログラムを示す。

日程	時間	プログラム	備考
9月5日 (月)	13:30 ～ 15:00	セッション1	<p>ネットワーク代表挨拶・本会合の趣旨 (5分)</p> <p>代表：京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 村上 正行</p> <p>参加者による自己紹介 (各自1分以内：1分×15名 約15分)</p> <p>「FDとの関わりと研究のバックグラウンド」 配布物：自己紹介シート</p> <p>活動報告 (10分)</p> <p>報告者：京都大学高等教育研究開発推進センター 半澤礼之</p> <p>講演：京都大学高等教育研究開発推進センター 大塚雄作先生「FD 研究コミュニティの形成に向けて」 (60分)</p>
	10 分間	休憩	(机配置換え)

	15:10 ～ 16:10	セッション 2	<p>ワークショップ 1 (60 分)</p> <p>テーマ：「講演への感想、質疑応答」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内ワーク (30 分) <p>自己紹介</p> <p>大塚先生の講演への感想、質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体発表、質疑応答 (30 分)
	10 分間	休憩	
	16:20 ～ 18:00	セッション 3	<p>ワークショップ 2 (90 分)</p> <p>テーマ：「FD・SD：お悩み相談」(FD・SD の『ここがうまくいっている・ここがうまくいっていない』)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク (20 分) <p>何がうまくいっている・うまくいっていないか、その原因は何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内ワーク (50 分) ・グループ間ワーク (20 分) <p>グループ再編成</p> <p>元のグループで出た意見等を報告し合う</p> <p>今後の連絡</p> <p>明日の集合場所：京都外国語大学 132 教室</p> <p>集合時間：9:30</p>
	19:00～	情報交換会	フリーディスカッション

9 月 6 日 (火)	9:30 ～ 10:30	セッション 4	<p>ワークショップ 3 (60 分)</p> <p>テーマ：ほんまでっか！？ FD</p> <p>「FD・SD：お悩み解決」(討論 1・2 で議論された課題について全体での意見交換を行う)</p> <p>パネリスト：村上、杉原、半澤、その他参加者有志</p>
	10 分間	休憩	
	10:40 ～ 11:40	セッション 5	<p>ワークショップ 4</p> <p>テーマ：「研究者としての専門性と組織における役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワーク (10 分) ・グループワーク (35 分) ・全体発表、討論 (15 分)

	11:40 ～ 12:00	セッション 6	今後の活動計画について (5 分) 山形大学教育開発連携支援センター 杉原 真晃 ・ 今回の合宿の成果のまとめ ・ 科研にかかる内容のお知らせ ・ 大学教育研究フォーラム (3 月) での若手交流会のお知らせ 閉会の挨拶 (5 分) 京都外国語大学マルチメディア教育研究センター 村上 正行 振り返りシート記入 (10 分)
	12:00	後片付・解散	(会場にて記念撮影)

2-1-2. 合宿研究会振り返りシート

合宿研究会終了時に、参加者に対してアンケート（振り返りシート）を行った結果、8 名から回答が得られた。アンケートは、合宿研究会に対する満足度（5 件法）、合宿研究会のよかった点（選択式）、改善点（自由記述）、今後 JFDN Jr.に期待すること（自由記述）、意見・感想（自由記述）を問う質問から構成されていた。その結果を以下に示す。

<合宿研究会に対する満足度>

合宿研究会の満足度を、「a.全体の総合評価」「b.講演」「c.ワークショップ 2：FD・SD の『ここがうまくいっている・ここがうまくいっていない』」「d.ワークショップ 3：FD・SD：お悩み解決」「e.ワークショップ 4：研究者としての専門性と組織における役割」「f.懇親会」「g.その他（自由記述）」に対して 5 段階評定（大変満足している～全く満足していない）で尋ねた。大変満足しているに 5 点、全く満足していないに 1 点の数字を割り当てて各項目の平均値を算出した結果、以下のような値が得られた。

- a. 全体の総合評価：平均値 4.38
- b. 講演：平均値 4.29
- c. ワークショップ 2：FD・SD の『ここがうまくいっている・ここがうまくいっていない』：平均値 4.57
- d. ワークショップ 3：FD・SD：お悩み解決：平均値 4.25
- e. ワークショップ 4：研究者としての専門性と組織における役割：平均値 4.38
- f. 懇親会：平均値 4.57

「g.その他」と回答した者はいなかった。いずれも平均値は 4.00 を超えており、高い評価が得られたといえるだろう。

<合宿研究会のよかった点>

合宿研究会のよかった点について、表 1 に示した 1～7 の 7 項目とその他（自由記述）2 項目の合計 9 項目で尋ねた。その際、各項目が上記 a～g のいずれの活動において感じられたのかに

ついて回答をしてもらった（複数回答可）。その回答を集計したのが表 1 である。その他と回答した者はいなかった。「日常業務についての課題の共有、解決策の獲得などができたこと」「日常業務を研究という観点から捉えることができたこと」「研究者マインドが刺激されたこと」といった項目に対する回答が多く、組織を超えた研究者ネットワークとしての JFDN Jr. の特徴が反映された結果であるといえるだろう。

表 1. 合宿研究会のよかった点

	a	b	c	d	e	f
1. 若手メンバー同士の交流がもて、親睦が深まったこと	0	0	0	0	0	0
2. FD 大学教育改善等の業務に関する情報交換ができたこと	2	2	0	1	0	4
3. 日常業務についての課題の共有、解決策の獲得等ができたこと	6	7	8	0	0	9
4. 日常業務を研究という観点からとらえることができたこと	7	8	10	4	4	5
5. 研究者マインドが刺激されたこと	7	5	8	7	7	2
6. 日常業務に対する相対化、振り返りができたこと	6	2	0	0	0	0
7. 特になし	0	0	0	0	0	0

<合宿研究会の改善点>

今回の合宿研究会の改善点について自由記述で尋ねたところ、次のような回答が得られた。特に、合宿研究会の目的の明確化や議論をおこなう上での課題は、今後の合宿研究会を進めていく上で重要な指摘であると考えられる。

- 事前連絡等の充実、合宿研究会の終了後のリフレクションがあるとよいのでは？
- 講演者の先生にはお茶を準備した方がいいと思います。
- 共通のアウトプットを出すようにしても良いかと思います。
- ネットワークの目的にもかかわるのかもしれませんが、合宿研究会のめざすところがややわかりにくいように思いました。例えば、大塚先生の FD コミュニティ形成に関する講演が、その後の活動にどうつながっているのかわかりませんでした。
- 2 日目の最初に提示されたような議論のたたき台的なもの（例：1 回目～3 回目の総括）が 1 日目の最初に示されていたら、初参加組も議論に参加しやすかったかもしれません。
- テーマを絞って議論をした方がいいのかな、と思いました。（様々な立場の人が集まっているので）

＜今後、JFDN Jr.に期待すること＞

今後、本ネットワークに期待することについて自由記述で尋ねたところ、以下のような回答が得られた。様々な意見が得られたが、いずれも重要な指摘であり、今後の JFDN Jr.の運営に活用していく必要があると考えられる。

- さらなる充実、拡大でしょうか。
- FD 学の創造に向けての基盤づくり
- たくさんの若手が集まってきて、互いに支えながら、教育と研究をよくすることです。
- 共同研究としてどこかに出版されることを期待しています。
- 一度、ネットワークとしてできることをギロンするのもいいかもしれないですね。
- 他領域の人たちへの拡大？（初等・中等教育、他分野？）
- FD 研究の方向性がみえるような議論や交流
- 自分の授業改善のヒントになるような議論や交流

アンケート全体を通じて、合宿研究会への満足度が高いこと、JFDN Jr.の活動に対する期待が高いことが伺えた。

2-2. メーリングリスト・メールマガジン

JFDN Jr.では、FD に関する情報提供・共有を目的としてメーリングリストを立ち上げている。メーリングリストは主として「各大学の FD イベントの紹介」「合宿研究会の案内」に活用されている。また、ML 参加者が業務の中で疑問に感じたことを ML で質問し、別の参加者がそれに答えるといったやり取りも生じている。

メールマガジンは 14-3 号まで刊行されており（2012 年 1 月現在）、様々な大学の FD の取り組みの紹介や学会・シンポジウムの参加報告、業務をおこなう上での悩み相談などがコンテンツとして含まれている。これらの記事は全て ML 参加者によって執筆されており、ML 参加者と共に作るメールマガジンであるということができるだろう。

3. 2012 年度の活動にむけて

2012 年度は、第 5 回合宿研究会の実施と、経常的な ML による情報交換・共有にメールマガジンの刊行を活動としておこなっていく予定である。また、本年度より JFDN Jr.の代表である村上正行（京都外国語大学）と副代表の杉原真晃（山形大学）、また、幹事の半澤礼之（京都大学）に、大塚雄作（京都大学）を加えたメンバーによって、「若手 FD 担当者が抱く問題意識とキャリア展望」という研究課題で、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C））：課題番号 23530853、研究代表者：大塚雄作）を取得した。本年度は上記課題を研究するための準備をおこなってきたため、2012 年度から本格的な調査研究を開始する予定である。

（半澤 礼之、田口 真奈）

